

第1章

清水町の現況と課題

1. 清水町の現況

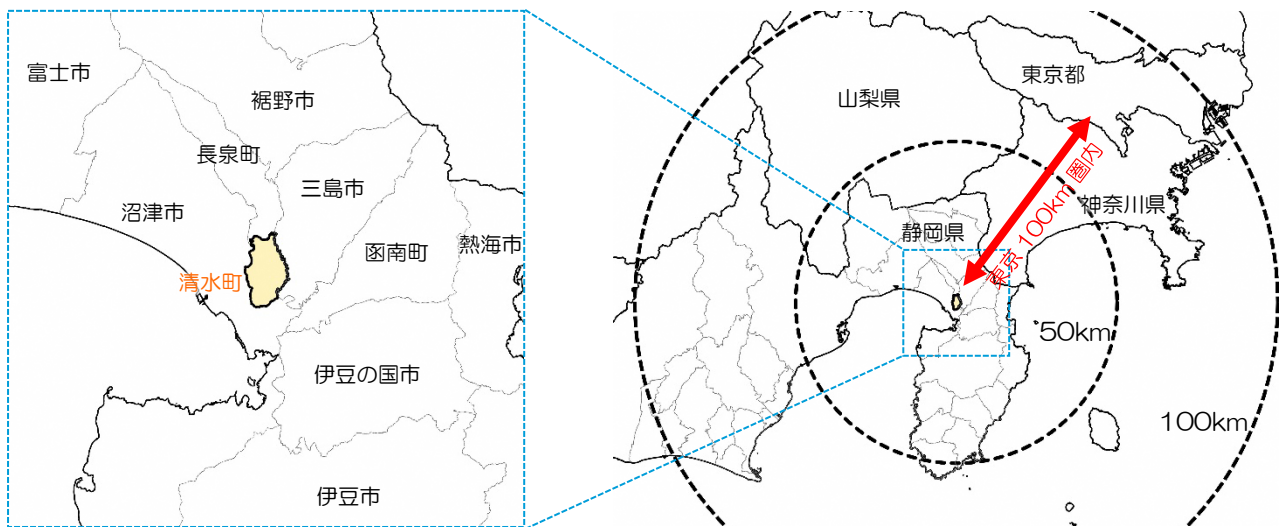
○ 清水町の概要

【位置】

本町は静岡県東部に位置し、西は沼津市、東は三島市、北は長泉町と接しています。また、東京からは約 100 km 圏内という立地です。

町域は東西に 2.7 km、南北に 4.54 km、面積は 881 ha であり、県内では最も面積の小さな町となっています。

■ 位置図



【地勢】

町の中央を南北方向に日本一の湧水量を誇り名水で知られる柿田川が、東西方向には狩野川が流れています。その他、町の西側の沼津市との行政界を黄瀬川が、東側の三島市との行政界を境川が流れ、市街地の中を柿田川など、清流が流れる環境があります。また、狩野川以南の地域は、本城山や徳倉山など緑豊かな山々に囲まれています。

本町の標高は、最も高いところで 256 m（徳倉山）、最も低いところで 2.9 m（徳倉矢崎河川敷）、市街地の大部分は 15 m 前後の平坦な地形となっています。

北部を横断する(都)中央幹線（国道 1 号）と、柿田川、狩野川により、町域は東西南北の 4 地域に区切られています。

【気候】

本町の平均気温は 16.5 °C 前後、年間降水量は 1,600 mm 前後であり、温暖な気候に恵まれた地域です。

【まちづくりの動き】

年	▲：都市計画 ■：整備・開発等 ●：その他	人口規模*
明治期		
明治 17 年 (1884)	■玉川、新宿、伏見、八幡、長沢、柿田、堂庭、久米田、戸田、畑中、的場、湯川の 12 村が集まり組合村となる	
明治 22 年 (1889)	■上記 12 村に徳倉村を合わせて清水村となる（現在の清水町の形）	3,909 人
昭和 30 年代		
昭和 35 年 (1960)	■徳倉橋（現橋梁）開通 ▲都市計画区域に編入（町全域：884ha）	
昭和 36 年 (1961)	▲都市計画道路 4 路線計画決定 （中央幹線、八幡徳倉線、八幡原線、川原ヶ谷八幡線）	
昭和 37 年 (1962)	▲都市計画道路計画決定（伏見柿田線）	
昭和 38 年 (1963)	■町制施行 清水町となる	12,379 人
昭和 39 年 (1964)	■国道 1 号三島バイパス開通	
昭和 40 年代		
昭和 40 年 (1965)	■北幼稚園開園	14,324 人
昭和 42 年 (1967)	■県立沼津商業高等学校 移転改築	
昭和 45 年 (1970)	■国道 1 号沼津バイパス開通（八幡～沼津市岡宮） ■徳倉橋歩道橋完成	2 万人突破
昭和 47 年 (1972)	▲市街化区域及び市街化調整区域の決定 （市街化区域：540ha 市街化調整区域：344ha） ■沼津卸商社センター完成	
昭和 48 年 (1973)	▲用途地域決定 ■横山トンネル開通	
昭和 49 年 (1974)	■新柿田橋（現橋梁）開通	
昭和 50 年代		
昭和 50 年 (1975)	■西小学校開校	25,693 人
昭和 53 年 (1978)	■役場新庁舎完成	
昭和 57 年 (1982)	▲柿田川緑地都市計画決定	
昭和 58 年 (1983)	■町保健センター開館、本城山公園開園	
昭和 60 年代		
昭和 60 年 (1985)	●柿田川湧水群が「名水百選」に選定 ■図書館「かわせみ」開館	26,803 人
昭和 61 年 (1986)	■柿田川公園、総合運動公園開園 ●柿田川湧水群が「静岡の自然 100 選」に選定	
昭和 62 年 (1987)	▲清水町公共下水道（狩野川流域西部）の決定 ■伏見谷口地区土地区画整理事業 換地処分	
昭和 63 年 (1988)	▲都市計画道路計画決定（西間門新谷線、玉川卸団地線）	

* 出典：清水町史、国勢調査、住民基本台帳等

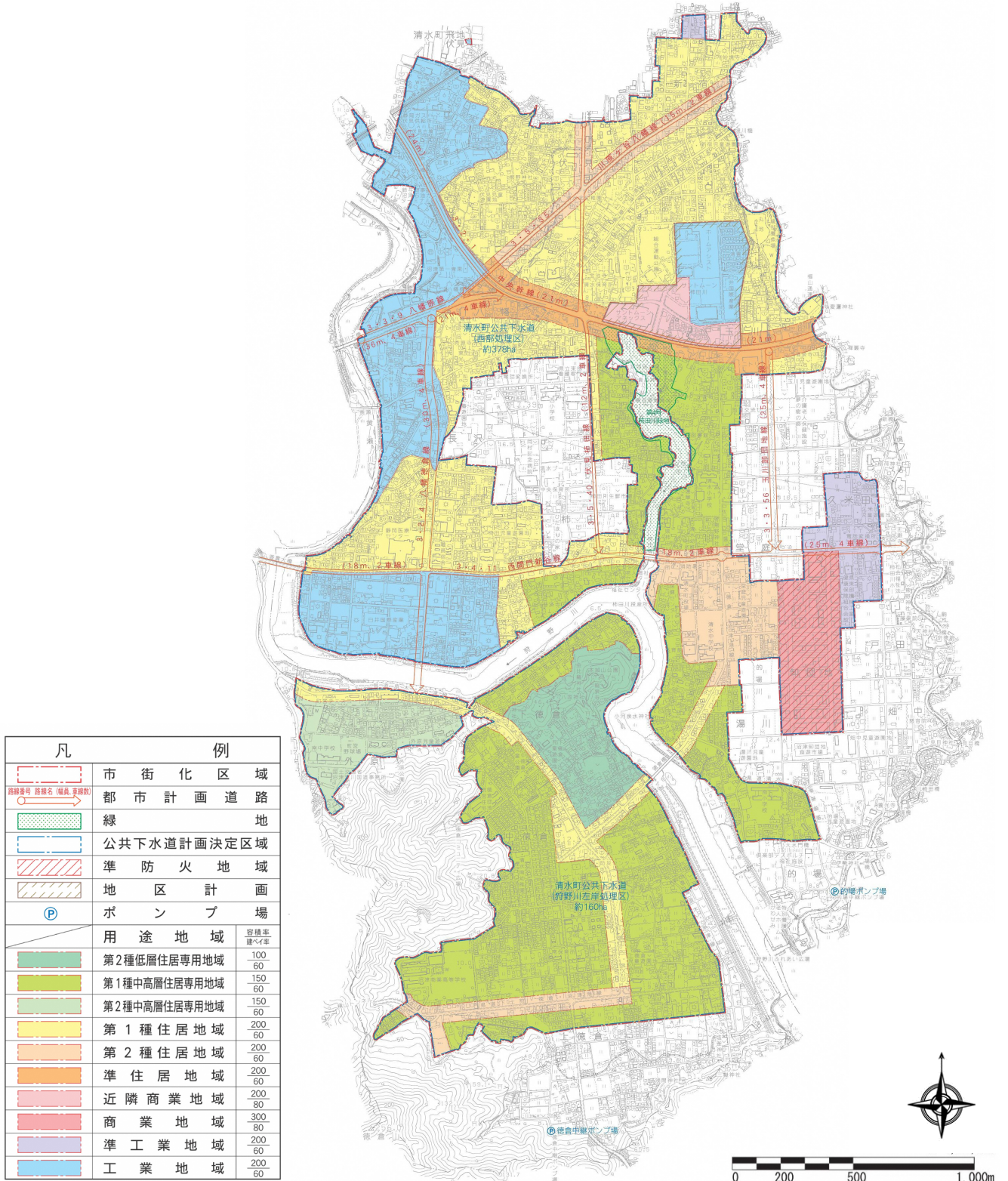
年	▲：都市計画 ■：整備・開発等 ●：その他	人口規模*
平成初期		
平成2年(1990)	■国道1号バイパス八幡立体交差開通	27,755人
平成3年(1991)	■町福祉センター、温水プール「わくわく」開館	
平成7年(1995)	▲清水町公共下水道(狩野川左岸)の決定	
平成8年(1996)	▲準防火地域の決定 ▲伏見・玉川国道1号北部地区計画(8.2ha) ■香貫大橋開通	3万人突破
平成10年代		
平成11年(1999)	▲清水町都市計画マスタープラン策定	
平成12年(2000)	■サントムーン柿田川 営業開始	30,870人
平成14年(2002)	■本城山公園リニューアル	
平成15年(2003)	▲東駿河湾広域都市計画 整備、開発及び保全の方針決定 ■下水道的場ポンプ場通水開始 ■町内循環バス運行開始	
平成17年(2005)	▲東駿河湾広域都市計画道路の変更	31,961人
平成18年(2006)	■清水町防災センター開館	
平成19年(2007)	■清水町子育て総合支援センター開館	
平成20年代		
平成21年(2009)	■清水町地域交流センター開館	
平成22年(2010)	▲東駿河湾広域都市計画 整備、開発及び保全の方針決定 ■下水道徳倉ポンプ場通水開始	32,302人
平成23年(2011)	●柿田川が国の天然記念物に指定 ▲第4次清水町総合計画策定	
平成24年(2012)	■県道原木沼津線バイパス開通	
平成25年(2013)	▲第2次清水町都市計画マスタープラン策定	
平成26年(2014)	■黄瀬川橋開通(架け替え工事)	
平成27年(2015)	■西間門新谷線(町道3号線)久米田地先開通	32,118人
平成28年(2016)	▲第4次総合計画後期基本計画を策定	
平成29年(2017)	■清水町観光協会わくら柿田川開館	
～令和3年現在		
平成30年(2018)	●伊豆半島ジオパークのジオサイトとして丸池、柿田川、本城山が指定	
令和2年(2020)	■清水町図書館・保健センター複合施設(愛称:まほろば館)開館	32,106人
令和3年(2021)	▲第5次清水町総合計画策定 ▲第2次清水町都市計画マスタープラン改定(本計画) ▲清水町立地適正化計画策定	

* 出典：清水町史、国勢調査、住民基本台帳等

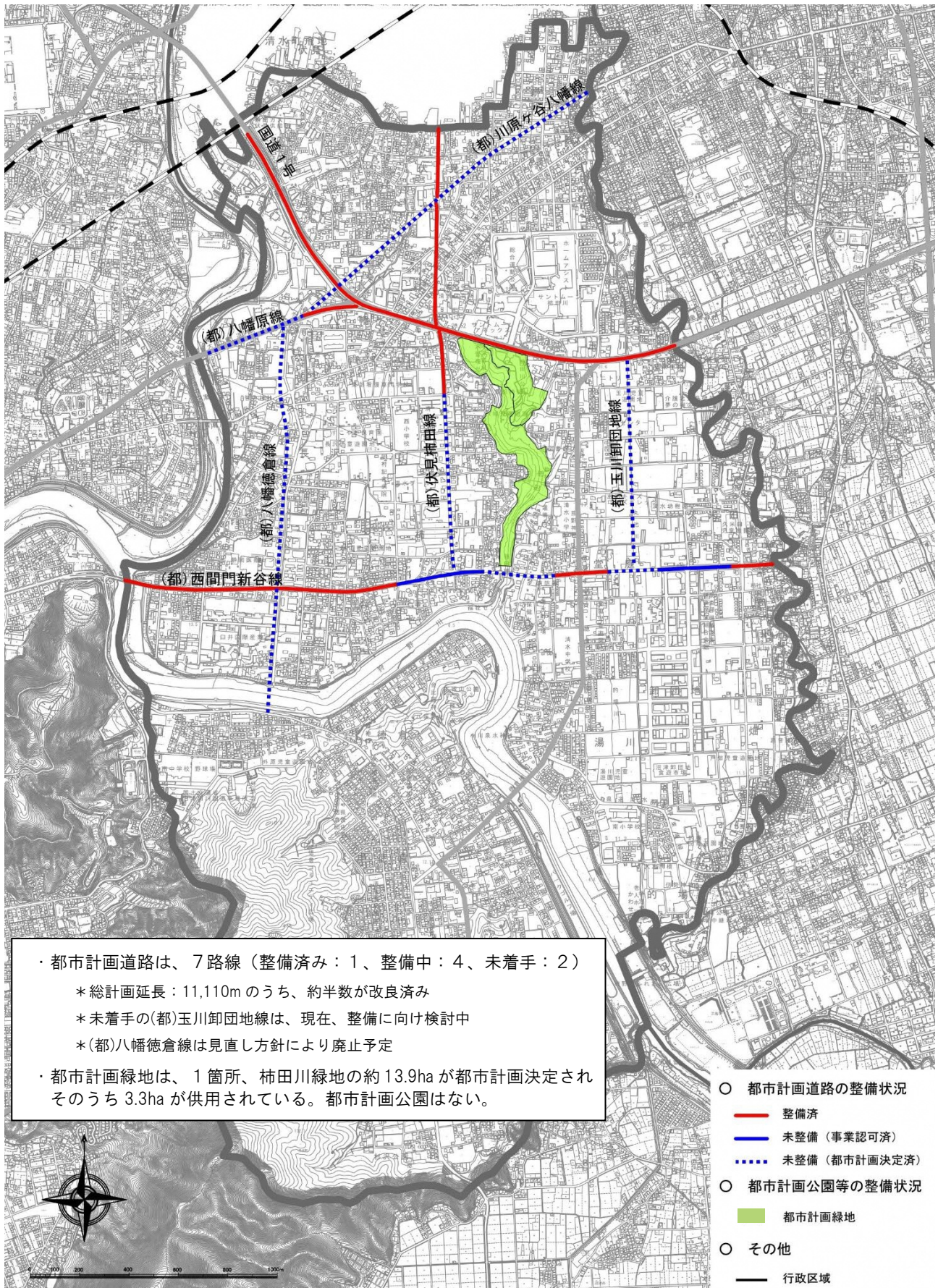
(1) 都市計画・基盤整備

- 町域面積 881ha のうち、約6割にあたる 534ha を市街化区域（用途地域）に指定しています。
- 都市計画道路の整備及び検討が進み、交通利便性の改善が期待されます。
- 本町は、沼津市・三島市・長泉町と広域都市計画区域を構成しています。

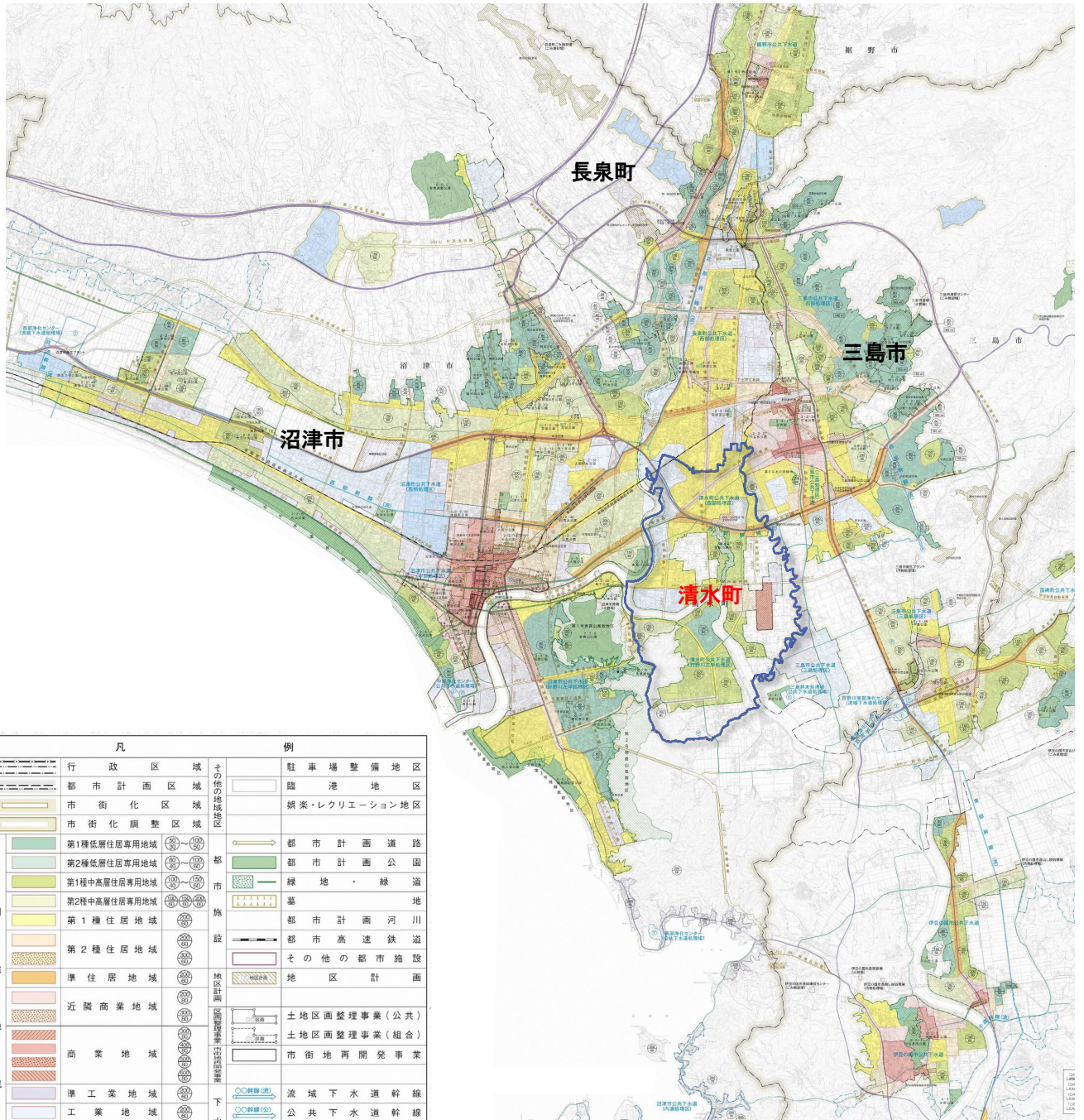
■ 都市計画図（出典：清水町都市計画図 2009 年）



■ 都市施設の整備状況 (出典：都市計画区域都市計画基礎調査 2015年)



■ 広域の都市計画図 (出典：東駿河湾広域都市計画図 2019年)



凡		例	
行政区域	その他の地域地区	駐車場整備地区	
都市計画区域		臨港地区	
市街化区域		娯楽・レクリエーション地区	
市街化調整区域		都市計画道路	
第1種低層住居専用地域	都市計画公園	緑地・緑道	
第2種低層住居専用地域	墓地	都市計画河川	
第1種中高層住居専用地域	都市高速鉄道	その他の都市施設	
第2種中高層住居専用地域	地区計画	地区計画	
第1種住居地域	土地区画整理事業(公共)	土地区画整理事業(組合)	
第2種住居地域	土地区画整理事業(組合)	市街地再開発事業	
準住居地域	流域下水道幹線	流域下水道幹線	
近隣商業地域	公共下水道幹線	公共下水道排水区域	
商業地域	都市下水道	都市下水道	
準工業地域	ポンプ場・処理場	ポンプ場・処理場	
工業地域	東名高速道路	東名高速道路	
工業専用地域	新東名高速道路	新東名高速道路	
容積率・建ぺい率 制限	国道	国道	
最低敷地面積	主要地方道・県道	主要地方道・県道	
特別用途地区 (大規模集客施設制限地区)	市街化調整区域内の 容積率・建ぺい率に よる区域界	市街化調整区域内の 容積率・建ぺい率に よる区域界	
高度利用地区			
防火地区			
準防火地区			
景観地区			
第1種風致地区			
第2種風致地区			



(2) 人口・高齢化

○本町の人口は、近年、徐々に減少しており、2040年には2015年の約8割まで減少すると推計されています（2015年約3.2万人が、2040年約2.6万人に）。

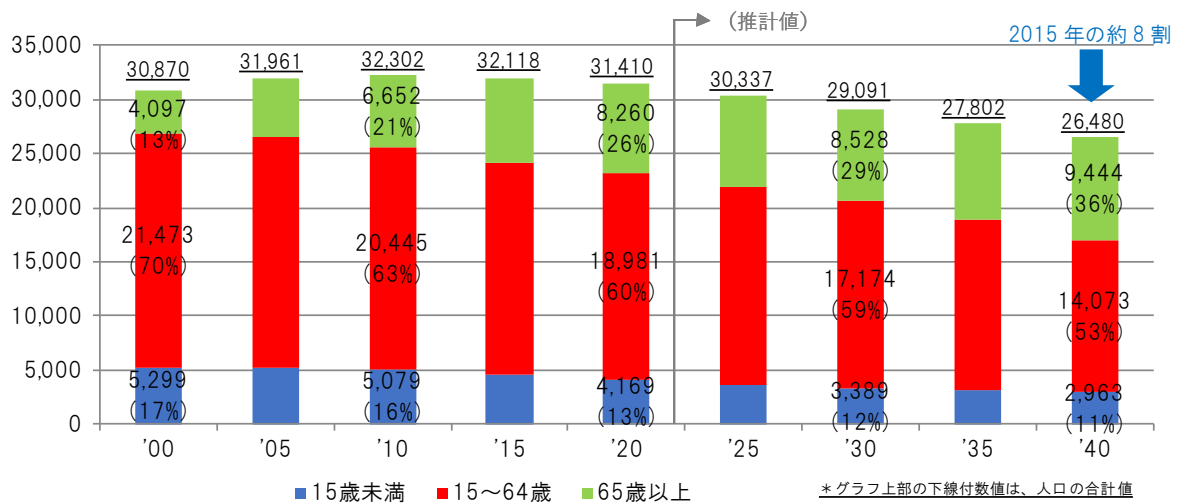
○高齢化も進行しており、2040年には高齢化率が35%超（3人に1人が65歳以上の高齢者）と推計されています。

○住宅地の人口密度は、生活利便施設が成り立つ目安とされる40人/haを維持しています。

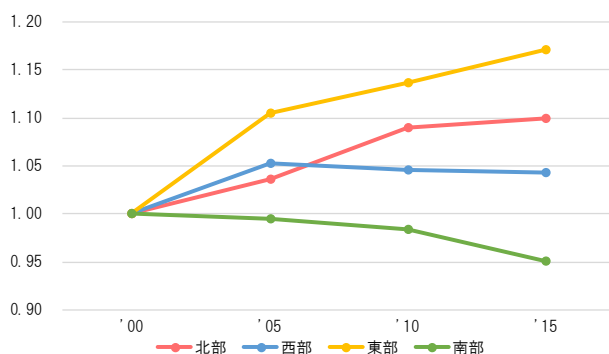
■ 清水町の人口動態

- ①近年、徐々に人口減少が進行しており、2040年には、2015年の約8割まで減少すると推計されている。高齢化も進行しており、2040年には高齢化率が35%超と推計され、3人に1人が65歳以上の高齢者となる見込みである。
- ②地域別に人口推移をみると、最も人口が多い南部地域で減少が進む一方、北部・東部地域では人口が増加している。
- ③都市計画の区分ごとの人口によると、町全体の約9割（約2.8万人）が市街化区域内に、また約7割（約2.4万人）が住居系用途地域に居住している。
- ④人口分布をみると、市街化区域内の広い範囲で、40人/ha（人口が集中し、生活サービスの維持に必要な目安）を超える人口が分布している。2020年と2040年の人口分布を比較すると、それほど大きな変化は見られない。高齢化の進行により、2040年にはほとんどの地域で高齢化率30%以上になる見込みである。

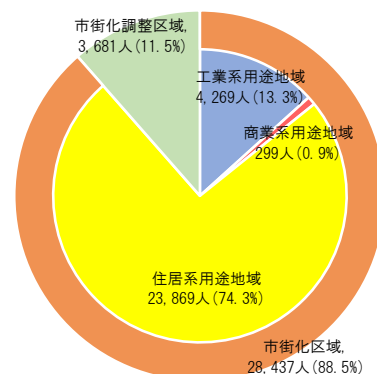
① 人口・高齢化の動向（出典：国勢調査2015年及び国立社会保障人口問題研究所資料2018年）



② 地域別の人口変化率（出典：国勢調査2015年）

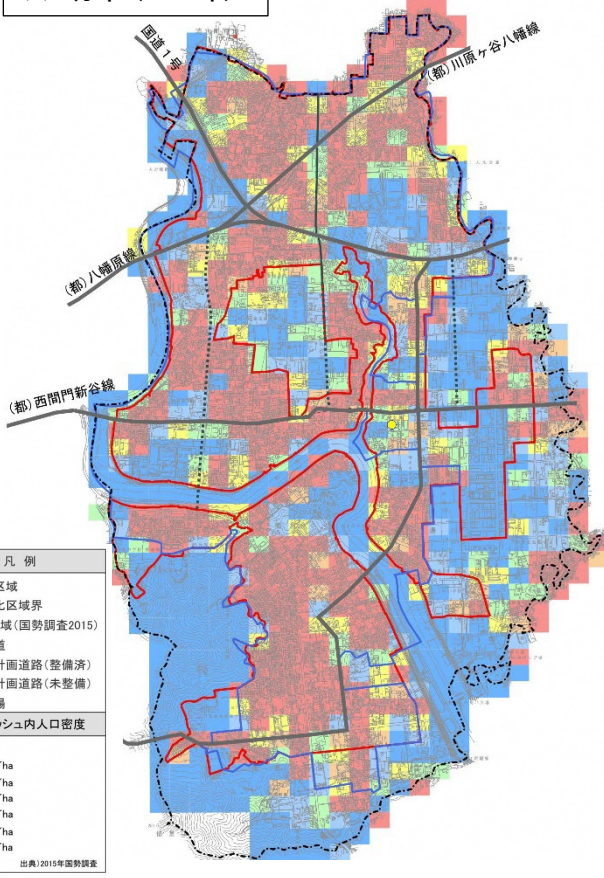


③ 都市計画の区分ごとの人口（出典：国勢調査2015年）

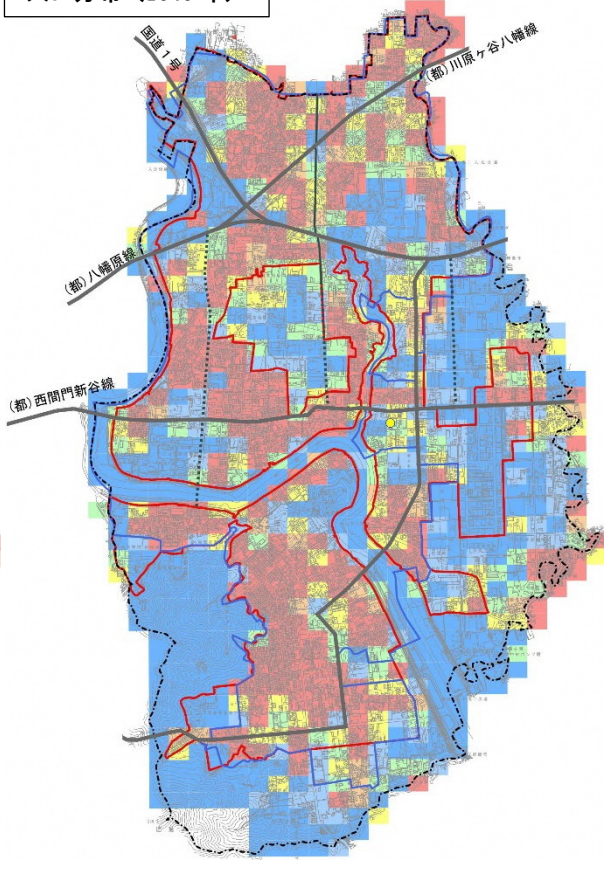


④ 100mメッシュでみる人口分布・高齢化率 (出典：国立社会保障 人口問題研究所資料 2018年)

人口分布 (2020年)

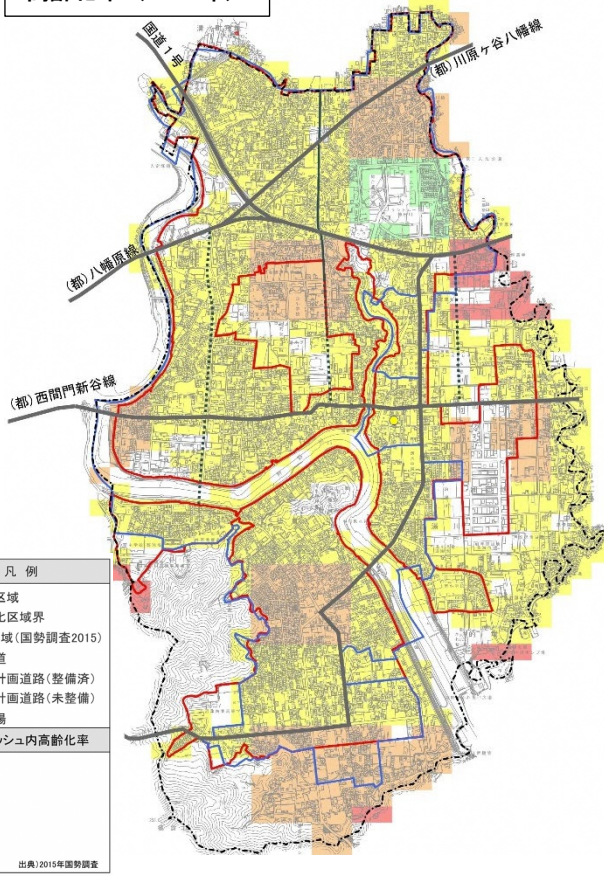


人口分布 (2040年)

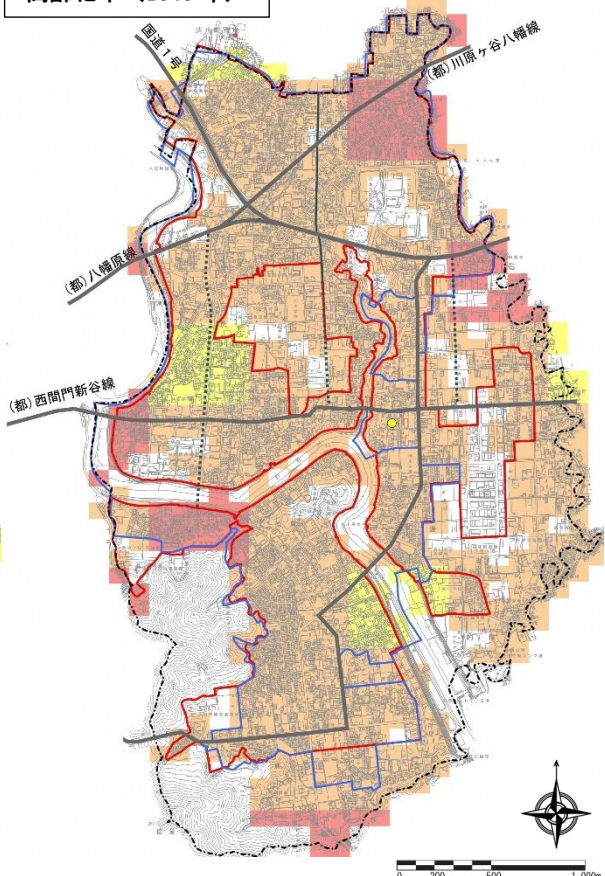


凡例	
---	行政区域
---	市街化区域界
---	DID区域(国勢調査2015)
---	国県道
---	都市計画道路(整備済)
---	都市計画道路(未整備)
●	町役場
100mメッシュ内人口密度	
Red	45人/ha
Orange	40人/ha
Yellow	30人/ha
Light Green	20人/ha
Blue	10人/ha
Dark Blue	0人/ha
出典:2015年国勢調査	

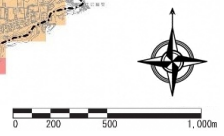
高齢化率 (2020年)



高齢化率 (2040年)



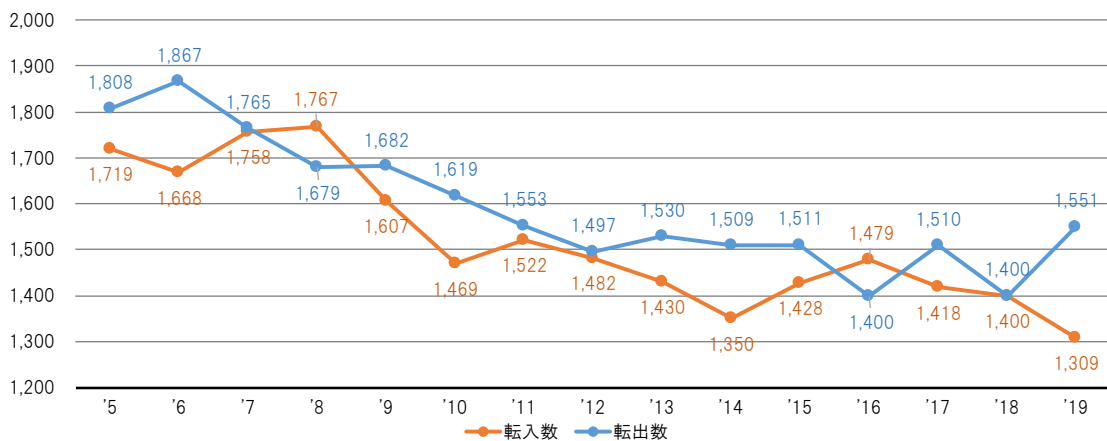
凡例	
---	行政区域
---	市街化区域界
---	DID区域(国勢調査2015)
---	国県道
---	都市計画道路(整備済)
---	都市計画道路(未整備)
●	町役場
100mメッシュ内高齢化率	
Red	40%
Orange	30%
Yellow	20%
Light Green	10%
Blue	0%
出典:2015年国勢調査	



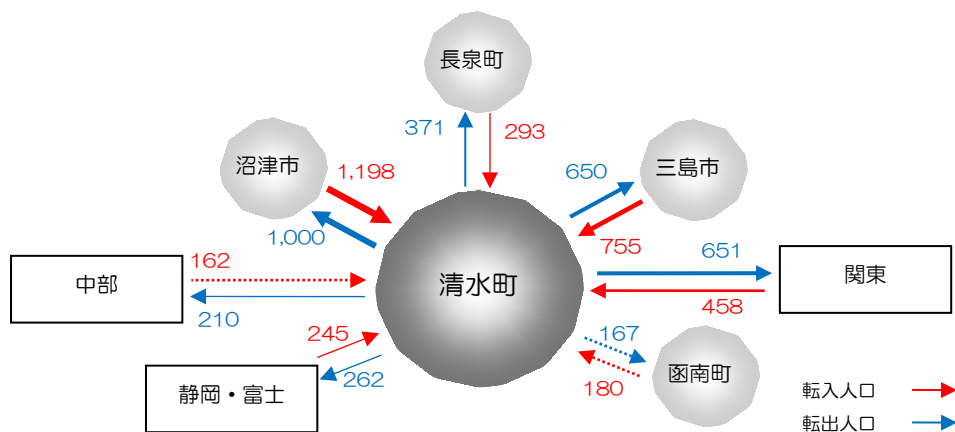
■ 町内外の人口移動

- ①本町の転入・転出数は年による変動があるものの、近年は社会減（転出が転入を上回る）となる年が多く、2019年の社会減（転出超過数）は242人となっている。
- ②転入・転出先の動向として、2015年時点では、隣接する沼津市、三島市との人口転入出が多く、これら2市との間では転入超過となっている（沼津市及び三島市からの転入1,953人に対し、転出1,650人）。
- ③西部、南部への転居者数は多いものの近年は減少傾向である。対して北部・東部は微増傾向にある。
- ④南部地域では新築家屋数の減少傾向が顕著となっている。

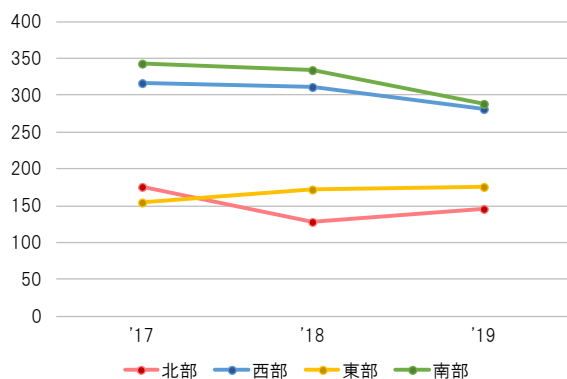
① 転入・転出数の推移（出典：総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数）



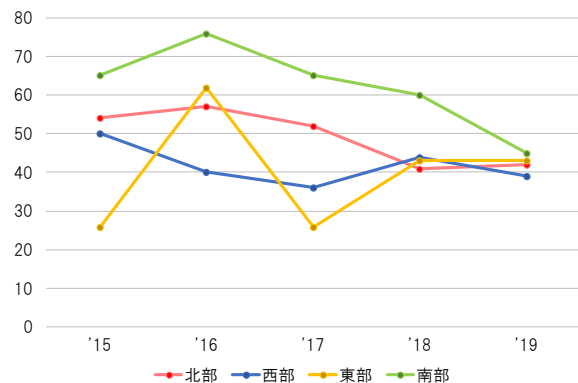
② 転入・転出先（出典：国勢調査2015年）



③ 地域別転居者数の推移（出典：清水町住民基本台帳）



④ 地域別新築家屋数の推移（出典：清水町）



■ 外国人人口の動向

- ・ 静岡県内において、本町は外国人人口比率が高い自治体であり、県東部地域では最も高い。
- ・ 本町の外国人人口は近年増加傾向にあり、周辺市町の中で沼津市、三島市に次いで多い。

① 外国人人口比率 県内上位 10 市町

(出典：国勢調査 2015 年)

市町村名	総人口	外国人人口	比率 (%)
菊川市	46,763	2,187	4.68
湖西市	59,789	2,249	3.76
磐田市	167,210	5,275	3.15
吉田町	29,093	821	2.82
袋井市	85,789	2,375	2.77
清水町	32,118	852	2.65
掛川市	114,602	2,828	2.47
牧之原市	45,547	1,017	2.23
浜松市	797,980	16,439	2.06
御前崎市	32,578	665	2.04

② 外国人の住民基本台帳人口推移

(出典：静岡県における外国人の住民基本台帳人口調査)

市町村名	2014	2015	2016	2017	2018
沼津市	3,460	3,520	3,615	3,853	4,249
三島市	1,129	1,157	1,196	1,272	1,348
清水町	937	938	1,036	1,129	1,212
裾野市	701	703	698	841	732
伊豆の国市	420	430	463	535	602
長泉町	325	335	346	354	391
函南町	283	295	313	326	310

■ 元気な高齢者

- ・ 本町では、高齢化が徐々に進行しているものの、元気な高齢者が多い。
- …静岡県は、全国 2 位の健康寿命となっている。
- …静岡県内では、本町は高齢者のお達者度（65 歳から元気で自立して暮らせる期間）が高い順位となっている。

① 健康寿命が高い都道府県

(出典：厚生労働省、2010 年・2013 年・2016 年の平均値)

男性			女性		
順位	都道府県	歳	順位	都道府県	歳
1	山梨県	72.31	1	山梨県	75.49
2	静岡県	72.15	2	静岡県	75.43
3	愛知県	72.15	3	愛知県	75.30

② 本町のお達者度の推移

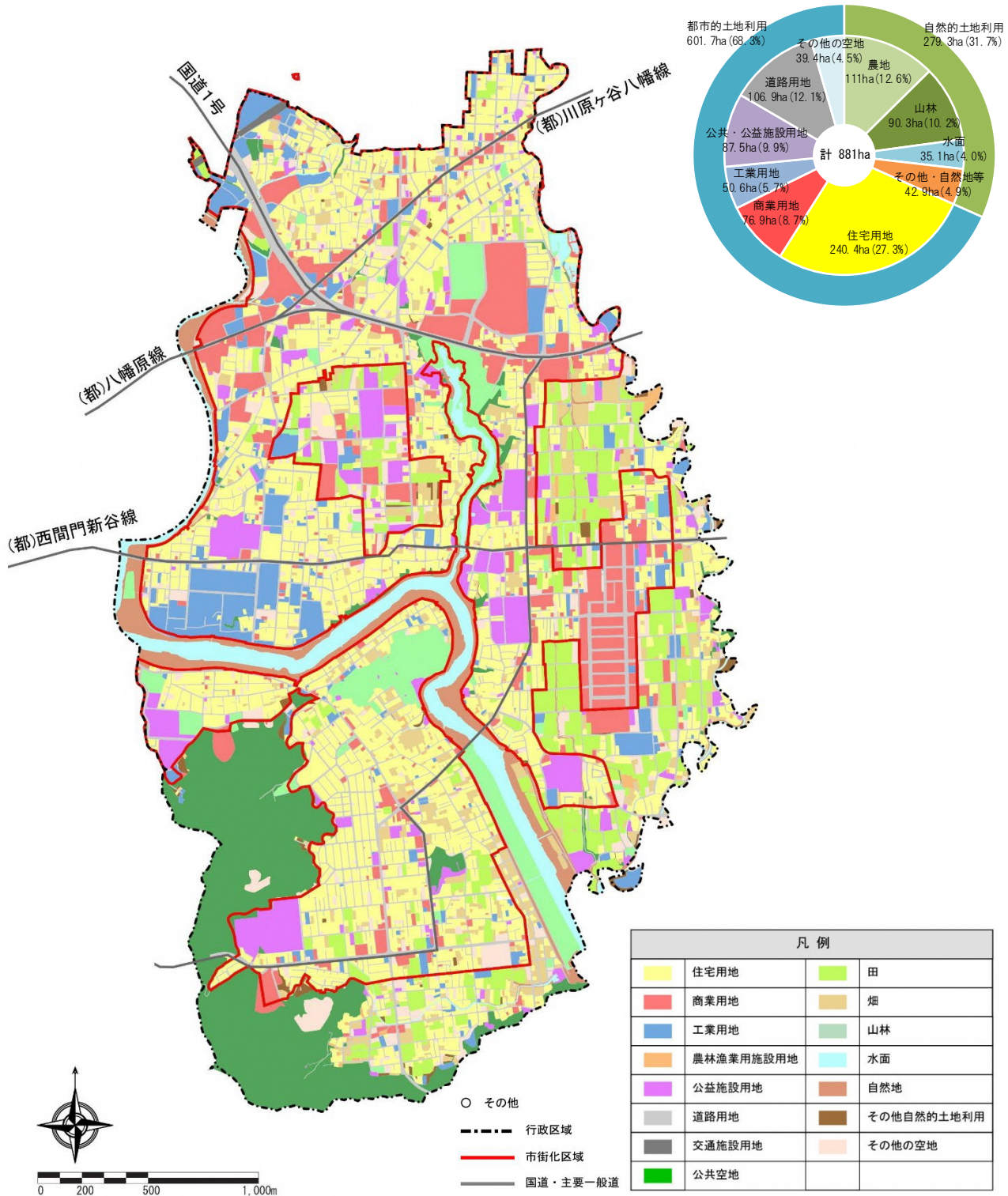
(出典：静岡県調査)

調査年度	男性		女性	
	お達者度(年)	順位	お達者度(年)	順位
2015	18.92	3	22.62	2
2016	18.92	3	21.86	3
2017	18.66	6	21.72	8

(3) 土地利用

○平坦な地形、沼津・三島への近接性、国道1号の交通利便性等から住宅地としてのニーズが高く、住宅用地を中心に都市的土地利用が町域の7割を占めています。

■ 土地利用別面積割合（出典：都市計画基礎調査 2016 年）



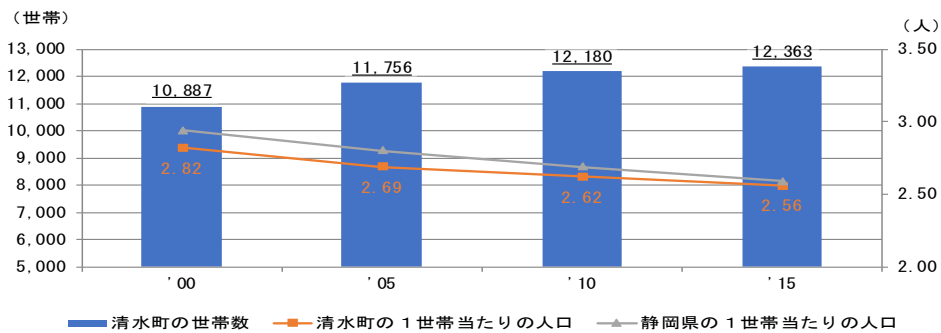
(4) 清水町における住まい方

- 本町の住宅地の公示価格は近隣市町と比較すると長泉町に次いで高く、持家に対するハードルは高いものの、世帯数は増加傾向にあります。
- 町の人口の4割弱が町外へ従業し、通勤・通学者の約6割が自動車利用となっています。

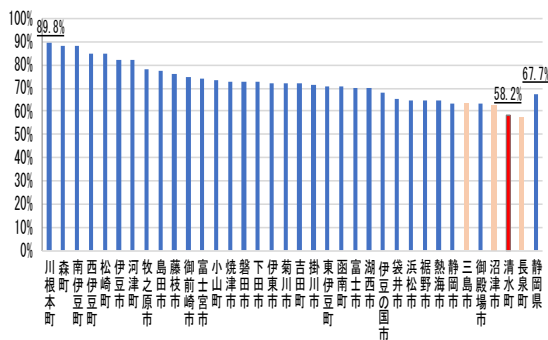
■ 居住環境

- ①世帯数は増加傾向にある。1世帯あたりの人員は約2.5人で県の数値と概ね同じである。
- ②持家率は県内で下から2番目の水準となっている。
- ③1住宅当たりの延床面積は、県内では下位グループだが、近隣市町と比べると最も大きい。
- ④住宅地の公示価格は近隣市町と比較すると、長泉町に次いで2番目に高い。
- ⑤住宅土地統計調査より、町の住宅ストックは約14,000戸である。そのうち330戸（約2%）が用途のない空家となっており、空家は極めて少ない。

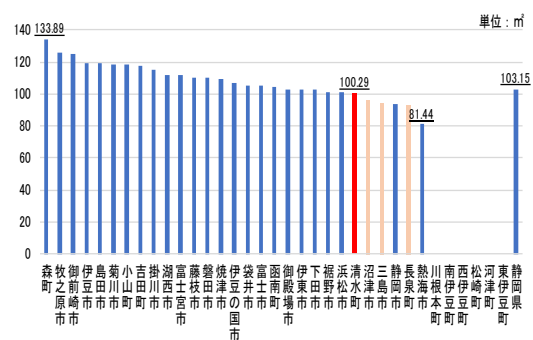
① 世帯数と世帯当たり人員数の推移（出典：国勢調査2015年）



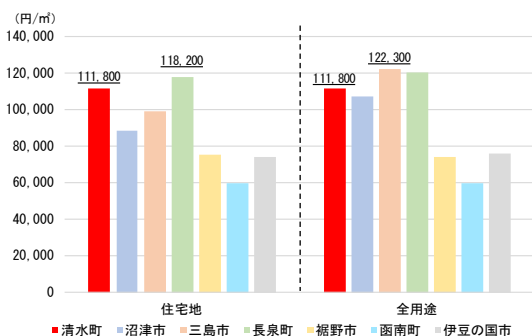
② 持家率（出典：国勢調査2015年）



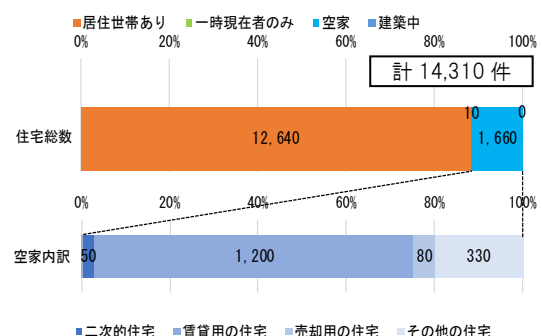
③ 1住宅当たりの延床面積（出典：住宅土地統計調査2018年）



④ 住宅地の公示価格（出典：地価公示価格2019年）



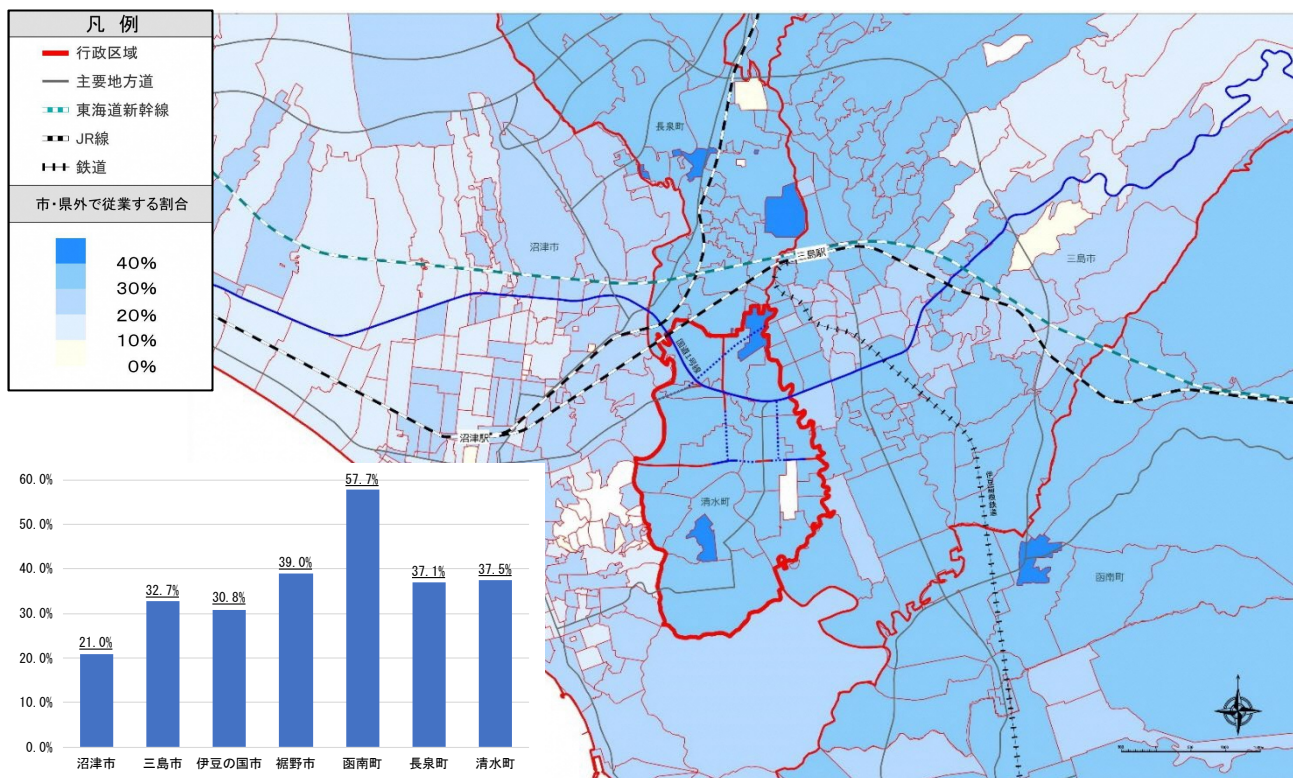
⑤ 住宅ストックと空家（出典：住宅土地統計調査2018年）



■ 町内外の移動・流出入

- ①町の人口の4割弱が町外へ従業しており、近隣市町と比較すると函南町、裾野市に次いで割合が高い。
- ②町の昼夜間人口比は100%を若干下回る。周辺市町では沼津市と裾野市が100%を上回る。
- ③町の自宅外就業者・通学者の通勤・通学先の割合は、町内が4割、周辺市町が5割となっている。
- ④町の通勤・通学の移動手段は自家用車が主となっている。また、周辺市町に比べ自転車利用の割合がやや高い。

① 町外で従業する割合（出典：国勢調査2015年）



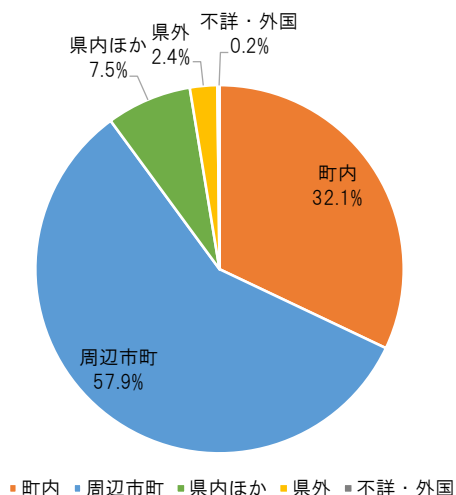
② 昼夜間人口（出典：国勢調査2015年）

	夜間人口		昼間人口		昼夜間人口比	
	2005	2015	2005	2015	2005	2015
清水町	31,958	32,118	31,565	31,155	98.8	97.0
沼津市	208,000	195,633	225,199	209,378	108.3	107.0
三島市	112,173	110,046	108,048	106,724	96.3	97.0
長泉町	38,716	42,331	38,274	40,532	98.9	95.8
裾野市	53,061	52,737	54,927	55,947	103.5	106.1
函南町	38,803	37,661	31,184	30,202	80.4	80.2
伊豆の国市	49,734	48,152	47,583	45,844	95.7	95.2
合計	532,445	518,678	536,780	519,782	100.8	100.2

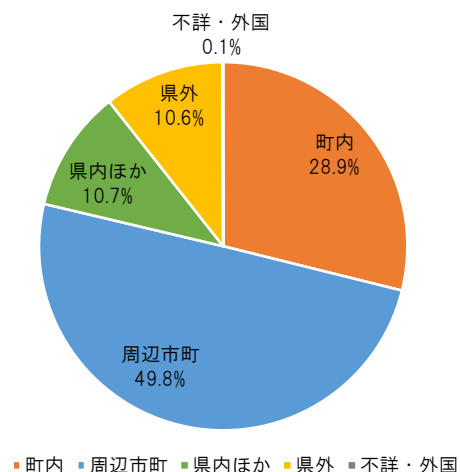
③ 清水町と周辺市町の通勤・通学状況（自宅外就業者・通学者）（出典：国勢調査 2015 年）

常住地	従業・通学地				
	自市町	周辺市町	県内ほか	県外	不詳・外国
清水町	40.0%	49.5%	6.4%	2.8%	1.3%
沼津市	70.9%	16.0%	9.0%	2.8%	1.3%
三島市	50.9%	34.7%	7.7%	5.6%	1.0%
長泉町	40.7%	45.1%	8.1%	4.9%	1.2%
裾野市	56.9%	24.3%	15.4%	2.7%	0.7%
函南町	37.6%	48.9%	8.9%	4.2%	0.4%
伊豆の国市	52.3%	32.8%	11.2%	2.7%	1.1%

《町民の通勤先》



《町民の通学先》



④ 通勤・通学者（15歳以上）の交通手段（出典：国勢調査 2010 年、上段は単位：人、下段は総数に占める割合）

市町名	徒歩だけ	鉄道・電車	乗合バス	勤め先・学校のバス	自家用車	ハイヤー・タクシー	オートバイ	自転車	その他	不詳	総数
清水町	1,359 (8.5%)	946 (5.9%)	787 (4.9%)	102 (0.6%)	10,083 (62.7%)	21 (0.1%)	821 (5.1%)	2,850 (17.7%)	241 (1.5%)	97 (0.6%)	16,082 (100.0%)
沼津市	9,190 (9.5%)	9,301 (9.6%)	4,921 (5.1%)	723 (0.7%)	56,449 (58.4%)	180 (0.2%)	4,711 (4.9%)	16,352 (16.9%)	1,420 (1.5%)	1,000 (1.0%)	96,595 (100.0%)
三島市	4,712 (8.6%)	7,976 (14.5%)	2,866 (5.2%)	756 (1.4%)	31,552 (57.4%)	94 (0.2%)	3,231 (5.9%)	7,746 (14.1%)	710 (1.3%)	725 (1.3%)	54,965 (100.0%)
長泉町	2,349 (11.2%)	2,505 (11.9%)	423 (2.0%)	312 (1.5%)	12,271 (58.5%)	25 (0.1%)	1,207 (5.8%)	3,054 (14.6%)	212 (1.0%)	88 (0.4%)	20,980 (100.0%)

(5) 交通

- 路線バスの利用圏域は、概ね町域全体をカバーしています。また、1時間に3本以上のバスが利用できる利便性の高いエリアは、概ね市街化区域をカバーしています。
- 町を横断する国道1号の交通量は、町の人口を超える5万台/日以上となっています。

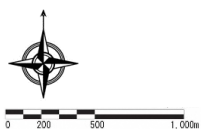
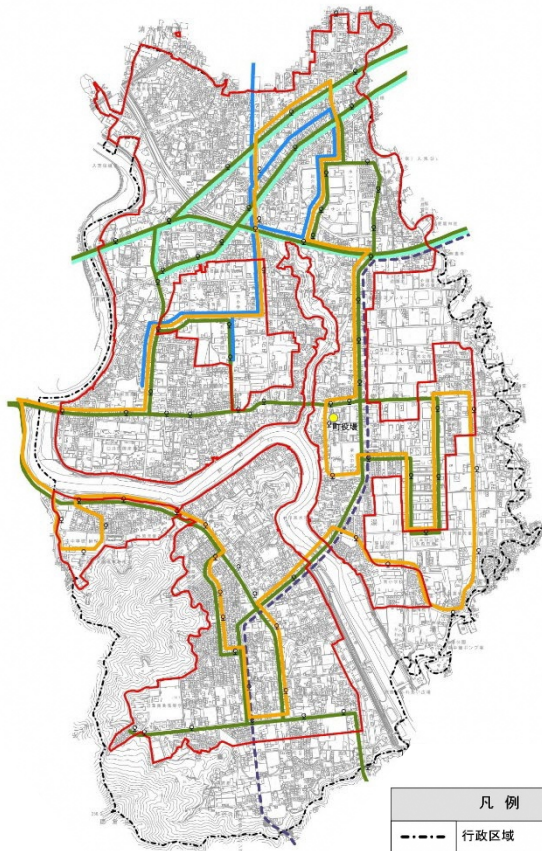
■ 路線バス

- ①町内を走る路線バスは、サントムーン柿田川を発着駅とし町内を循環する路線、JR沼津駅とJR三島駅間を走行する路線、長泉町と本町を往来する路線等があり、定期路線が7路線、休日のみ東京と沼津を往復する高速バスが1路線の全8路線となっている。
- ②路線バスの利用圏域は、町全体を概ねカバーしている。また、ピーク時1時間に3本以上のバスが利用できるサービスレベルの高いエリアも、市街化区域を概ねカバーしている。
 - *1時間に3本以上利用できるバスが、片側の車線のみの場合には非表示としている。
 - *バス利用率は低く、一部のバス路線に補助金を拠出している。

① 町内を走行するバス路線

(出典：清水町HP等 ※2019年時点)

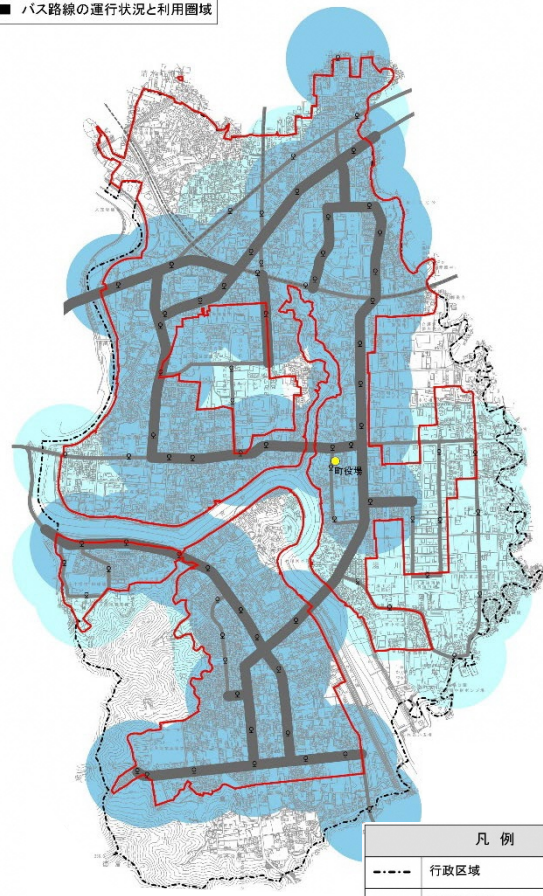
■ バス路線図



② 町内を走行するバスの利用圏域 (バス停から300m)

(出典：各バス会社時刻表等 ※2019年時点)

■ バス路線の運行状況と利用圏域

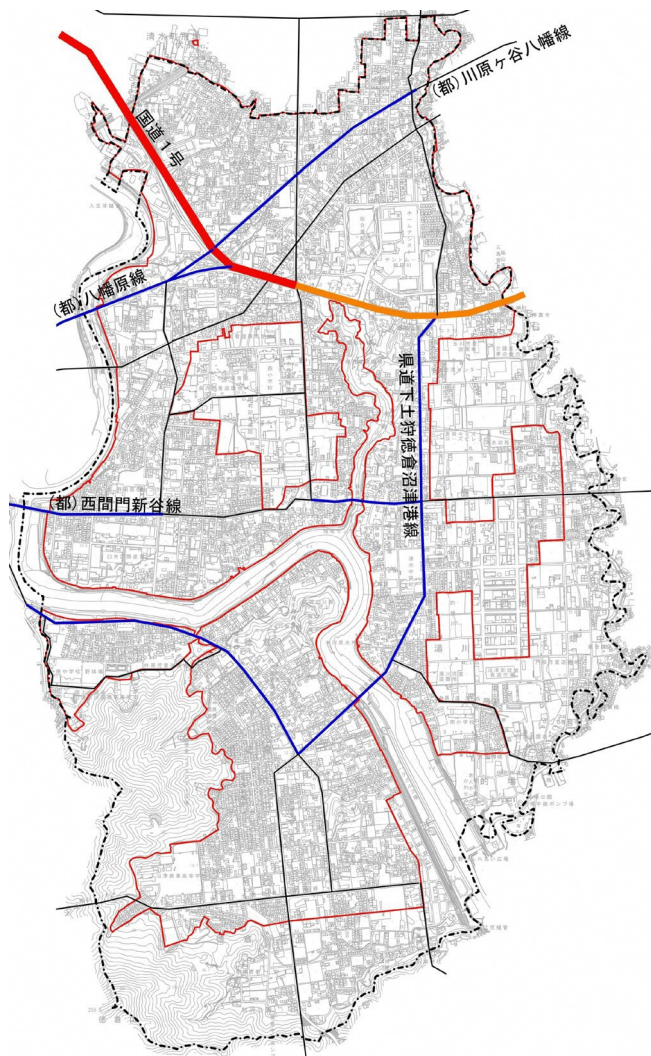


■ 自動車交通量

- ①自動車交通は、町を横断する国道1号の交通量が最も多く5万台／日以上、次いで、沼津駅と三島駅をつなぐ(都)八幡原線・(都)川原ヶ谷八幡線や、国道1号から町南側につながる県道下土狩徳倉沼津港線等が1万～2万台／日となっている。
- ②県の交通量推計によると、2035年には全体的に交通量は減少すると見込まれている。現在整備中の(都)西間門新谷線、及び整備検討中の(都)玉川卸団地線では、交通量が増加すると見込まれている。

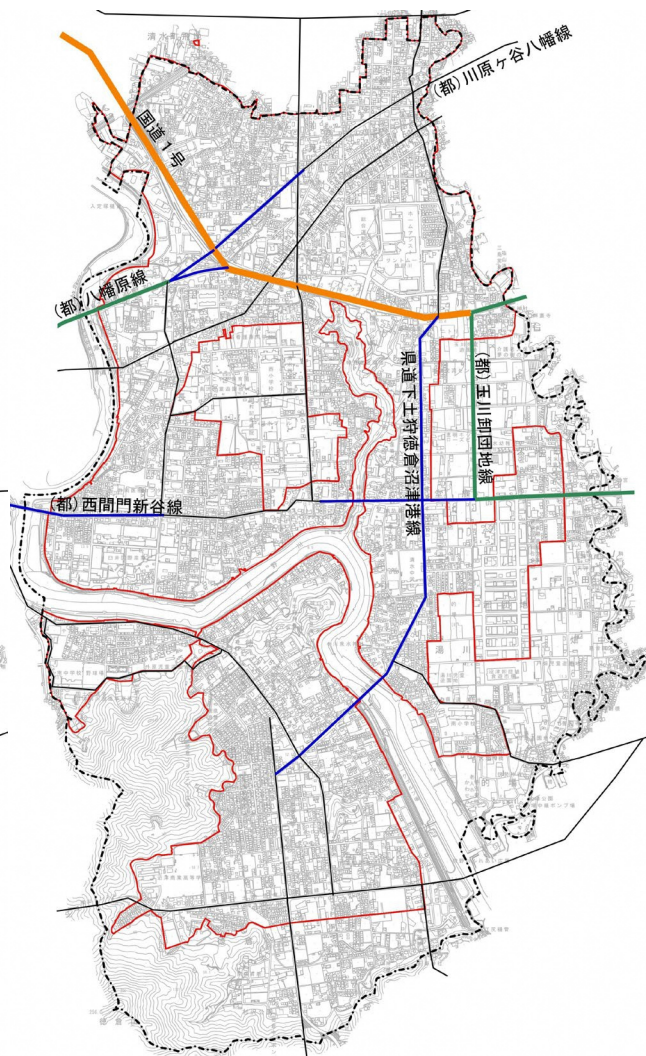
① 2015年の自動車交通量

(出典：東駿河湾都市圏交通体系調査報告書 2019年)



② 2035年の自動車交通量予測

(出典：東駿河湾都市圏交通体系調査報告書 2019年)



凡例

	50,000台/日以上
	40,000台～50,000台/日
	30,000台～40,000台/日
	20,000台～30,000台/日
	10,000台～20,000台/日
	10,000台/日未満
	行政区域
	都市計画区域



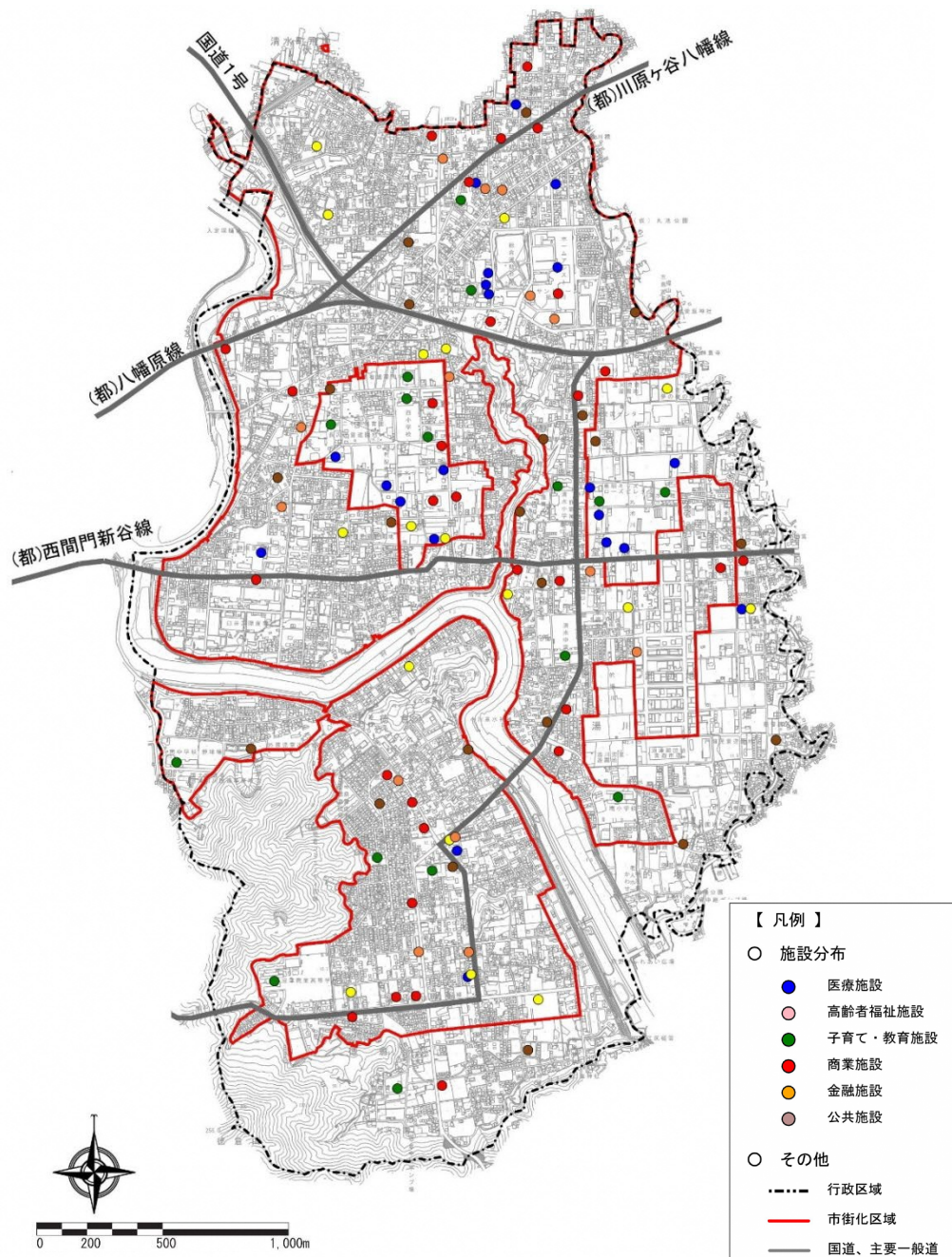
0 200 500 1,000m

(6) 生活利便施設の分布と誘致圏

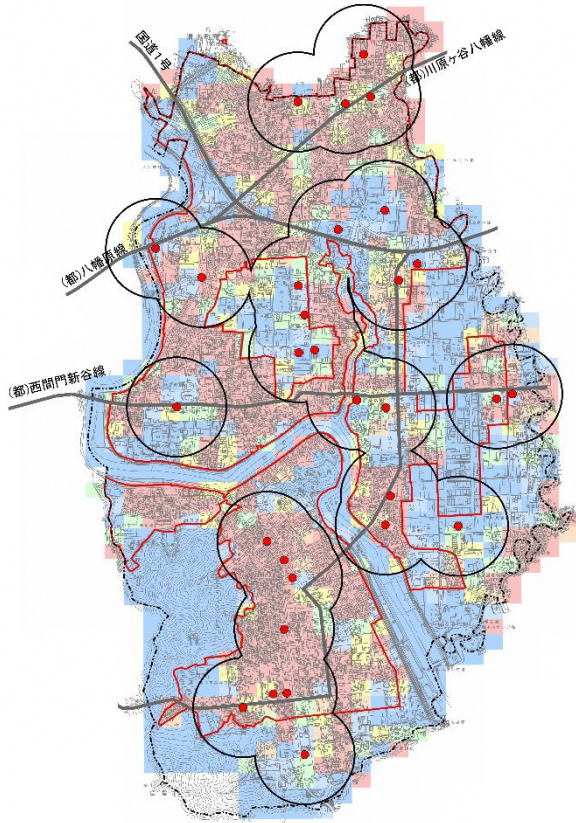
○高い人口密度や自動車交通量に支えられ、町全体に多様な生活利便施設が数多く立地しています。

■ 各種生活利便施設の分布状況と誘致圏 (出典：清水町 HP、地域医療情報システム、i タウンページ等)

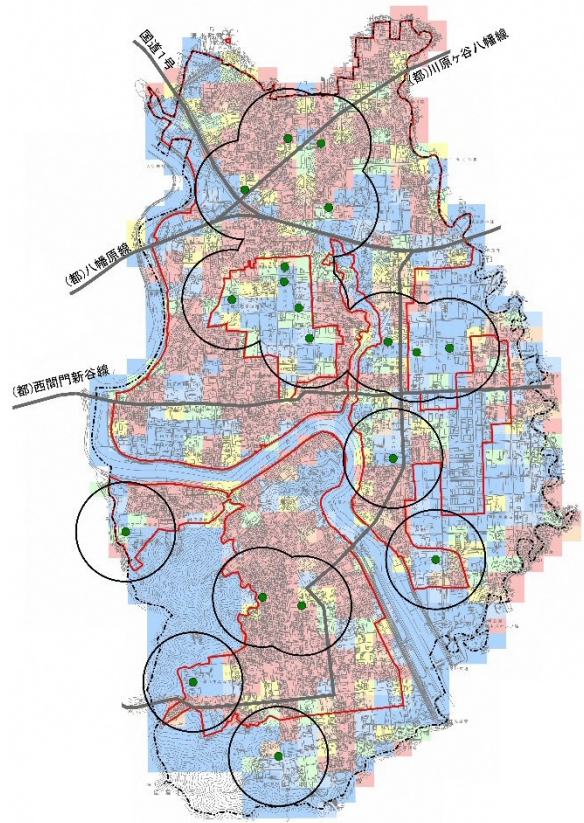
- ①交通量の多い国道1号の沿道に大型商業施設が立地している。(都)西間門新谷線の沿道では、商業施設の進出傾向がみられる。
- ②町の南側にある小学校は南小学校のみで、南部の人口密度が高い地域に小中学校が立地していない。北部にも小中学校は立地していない。狩野川沿いに小中学校が1校ずつと、市街化調整区域に小学校が立地している。
- ③総合病院は町の西部に位置し、他地域には専門医院が比較的密集して立地している。
- ④福祉施設は主に、国道1号、西間門新谷線等の主要道路の沿線に立地している。北部・中部・南部に密集し、概ね人口密度の高い地域をカバーしている。



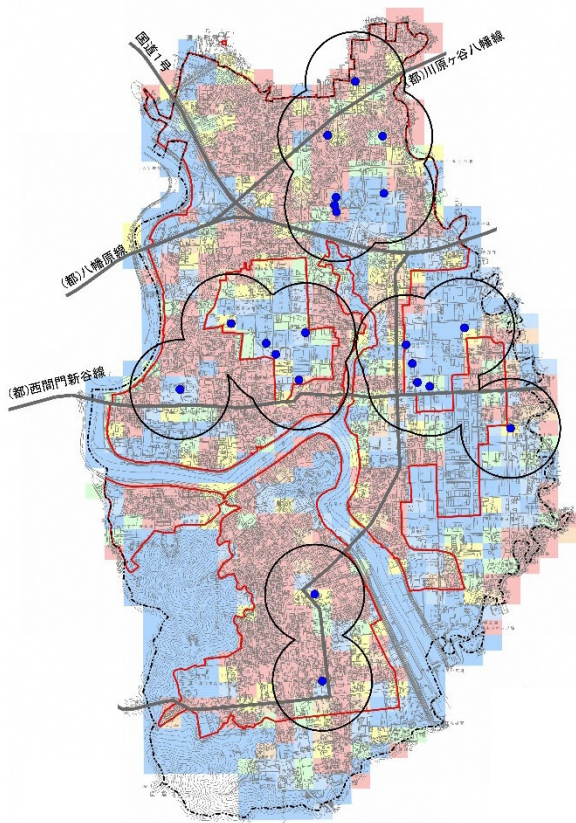
① 商業施設の分布と誘致圏 (出典：iタウンページ等)



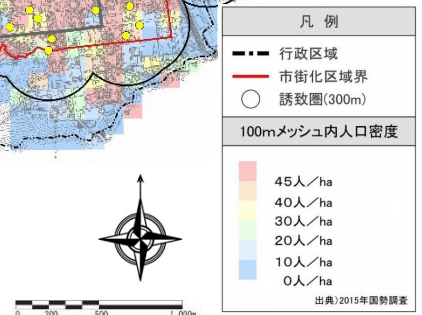
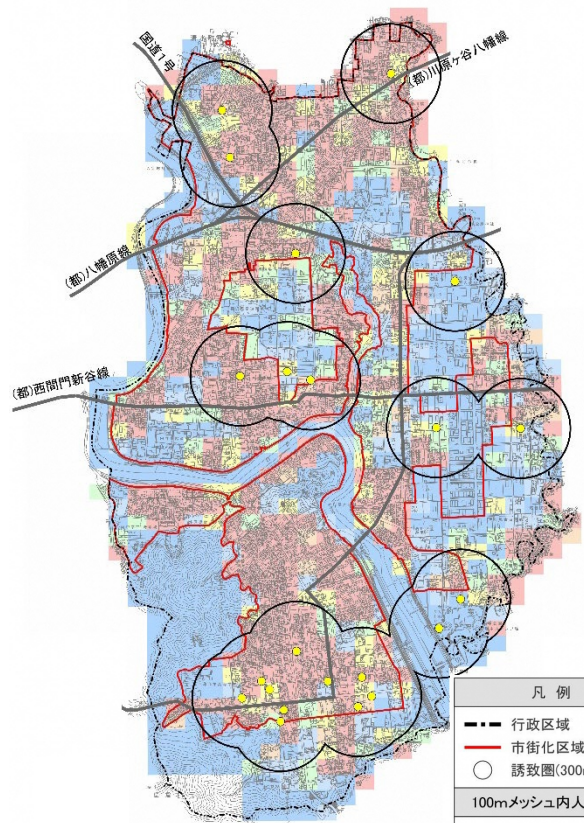
② 子育て・教育施設の分布と誘致圏 (出典：清水町HP)



③ 医療機関の分布と誘致圏 (出典：地域医療情報システム)



④ 福祉施設の分布と誘致圏 (出典：地域医療情報システム)



(7) 産業

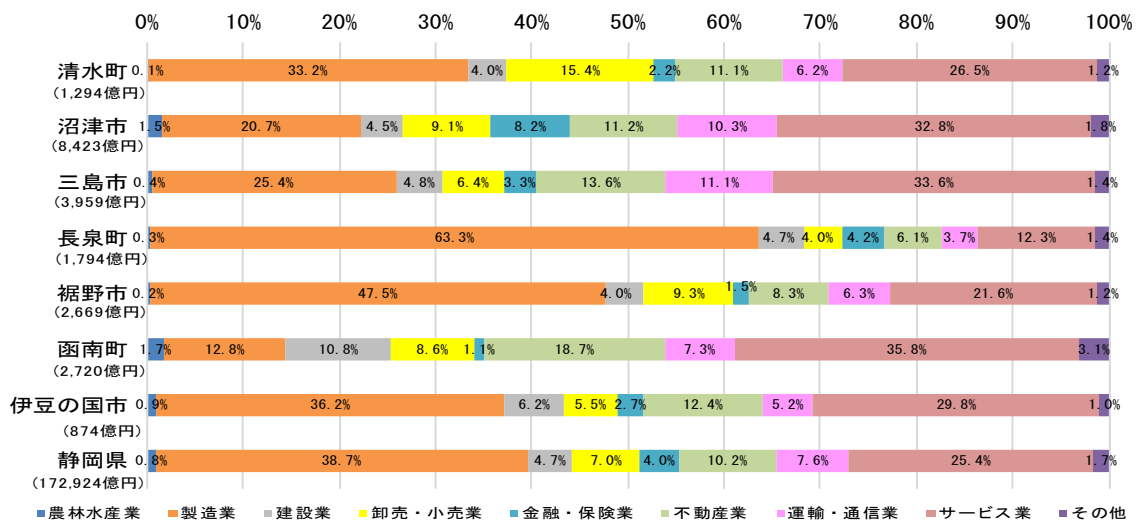
○町の産業は、製造業が3割を超えており、近隣市町と同じく高い割合を占めています。

○また、周辺市町と比較して卸売業・小売業の割合も高く、県東部地域の流通拠点である卸団地や国道1号などの自動車交通量に支えられている大規模商業施設などの立地が要因と考えられます。

■ 産業全体の動向

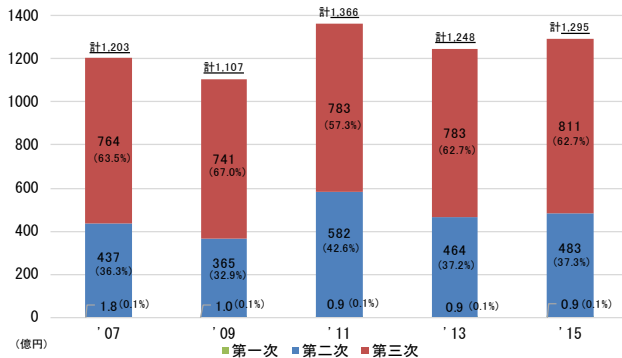
- ①町の総生産に占める割合は、製造業が3割超で、近隣市町と同じく高い割合を占める。また、周辺市町と比較して卸売業・小売業の割合も高く、県東部地域の流通拠点である卸団地や国道1号等の自動車交通量に支えられている大規模商業施設などの立地が要因と考えられる。
- ②産業別生産額は、概ね横ばいで1,200億円前後。第3次産業の割合が全体の約6割を占め、次いで第2次産業が約4割の傾向が続く。
- ③産業別就業者数は、2005年をピークに微減し、2015年には約1.5万人となっている。第3次産業の全体に占める割合が増加し、2015年には全体の7割弱を占める。

① 近隣市町と比較した経済活動別市町内総生産 (出典：しずおかけんの地域経済計算 2015年)



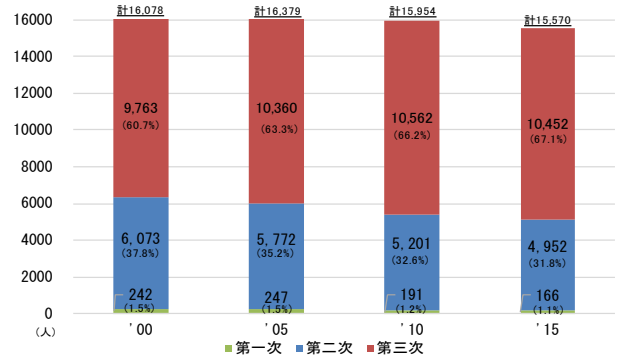
② 産業別生産額割合

(出典：しずおかけんの地域経済計算 2015年)



③ 産業別就業者数

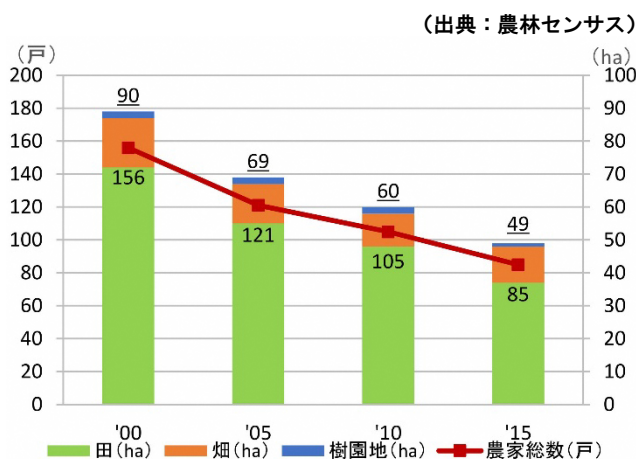
(出典：国勢調査 2015年)



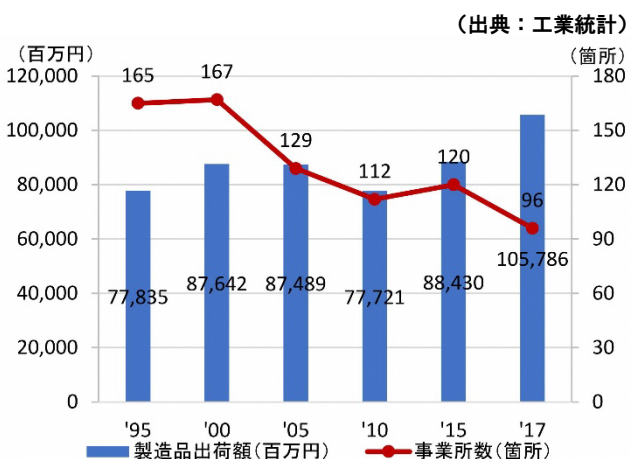
■ 産業別の傾向

- ①販売農家の総数と経営耕地面積は、ともに減少傾向である。田が最も多く約8割を占める。
- ②工業の事業所数は減少傾向にある一方、製造品出荷額は概ね増加傾向となっている。
- ③商業の商店数・従業者数・年間販売額は、すべて減少傾向である。
- ④本町の観光交流客数は約54万人となっている。通過滞在型の観光地で、宿泊客は1割以下である。

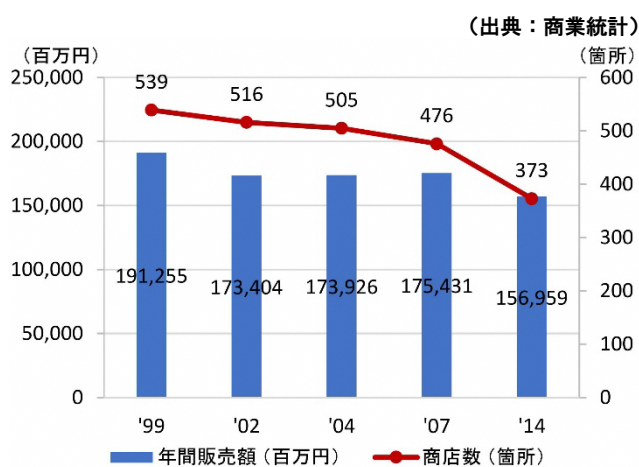
①（農業）販売農家数と経営耕地面積の推移



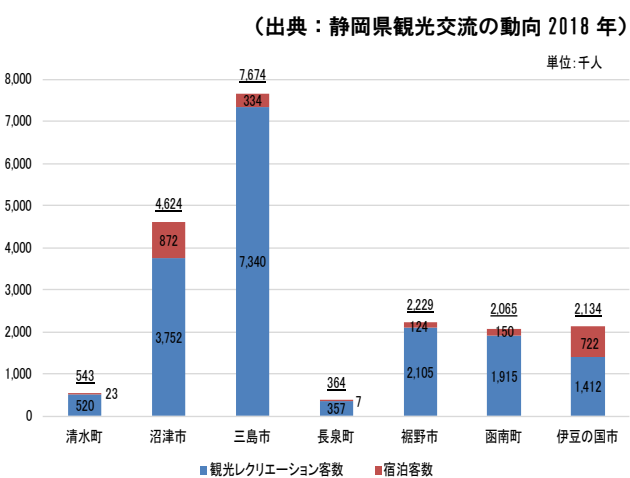
②（工業）製造品出荷額と事業所数の推移



③（商業）年間販売額と商店数の推移



④（観光）清水町と周辺市町の観光交流人口

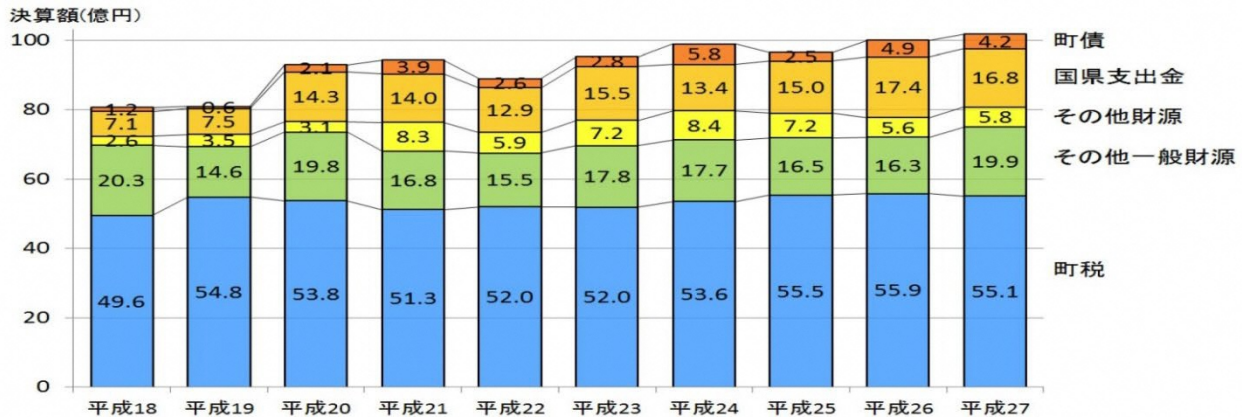


(8) 財政

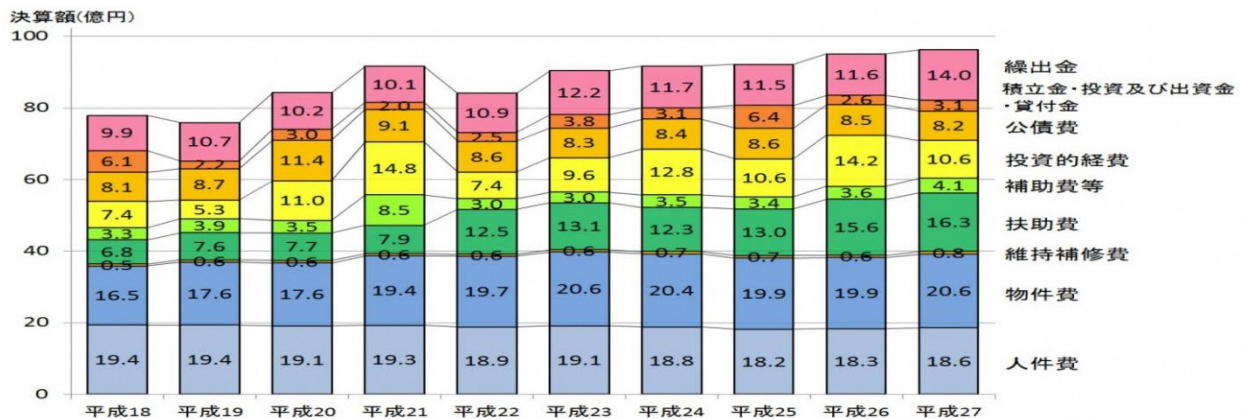
○今後、人口減少に伴う税収の減少や、高齢化の進行による社会保障費等の増加により、町の財政は厳しくなることが想定されます。

○今後の財政と公共施設の更新費用の推計では、現在所有する公共施設等を同規模、同水準で更新することは困難と想定されています。

■ 歳入の推移 (出典：清水町公共施設等総合管理計画 2017年)

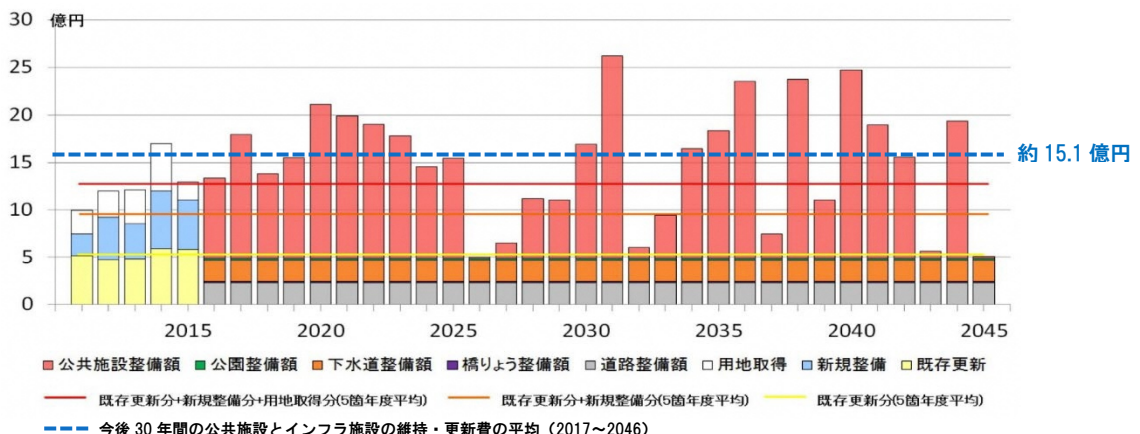


■ 歳出の推移 (出典：清水町公共施設等総合管理計画 2017年)



■ 将来負担のコスト推計 (出典：2017年清水町公共施設等総合管理計画)

・公共建築物とインフラ施設の整備・更新等に係る年間の支出は、直近5か年では約11億円だったが、施設の老朽化により、今後30年間(2017~2046)では約15.1億円と見込まれ、現状と同水準での整備は困難と想定される。



(9) 災害リスク

○災害履歴をみると、地震による被害は少ない一方、水害は町の南部等で発生しています。

○静岡県第4次地震被害想定では、元禄型関東地震により、町全体で震度5以上の揺れと、町の南部で液状化が想定されています。想定される被害は最悪のケースで以下のとおりとなっています。

- ・死者数なし
- ・建物全壊、焼失 100棟（内訳は、揺れが約70棟、液状化が約60棟、山崖崩れ約10棟等）
*上記の死者数・建物全壊、焼失等は南海トラフ巨大地震の想定であり、また、要因は、四捨五入の関係で一致していない。

○狩野川沿い、町の南部の市街地において、洪水による浸水リスクが懸念されています。

○的場地区や上徳倉地区では、5m以上の浸水が想定される箇所があります。

■ 災害履歴（出典：静岡県地震防災センターホームページ等）

【災害事例 地震】

- ・1854年12月23日（安政東海地震 M=8.4）県下全域に及ぼした大地震。当地では長沢・徳倉・木瀬川・柿田等で震度6～7程度で、被害もかなり出た。
- ・1923年9月1日（関東地震 M=7.9）東京・横浜を潰滅させた大地震であった。当地で家屋全潰4戸（0.5%）を出した。
- ・1930年11月26日（北伊豆地震 M=7.3）丹那断層を生じ、伊豆北部を中心に被害があった。当地では、死者6人、負傷者15人、住家全潰26戸、半潰34戸等の被害を受けている。

【災害事例 水害】

- ・1958年9月26日に伊豆半島に接近した狩野川台風は、静岡県伊豆地方と関東地方に甚大な被害をもたらした。本町では人的被害はなかったものの、床上浸水14戸、床下浸水7戸が発生した。
- ・1961年7月26日、台風6号により、本町では床上浸水43戸、床下浸水100戸以上が発生した。的場地区が全戸浸水したほか、下徳倉・上徳倉・戸田畑中なども局地的に浸水した。

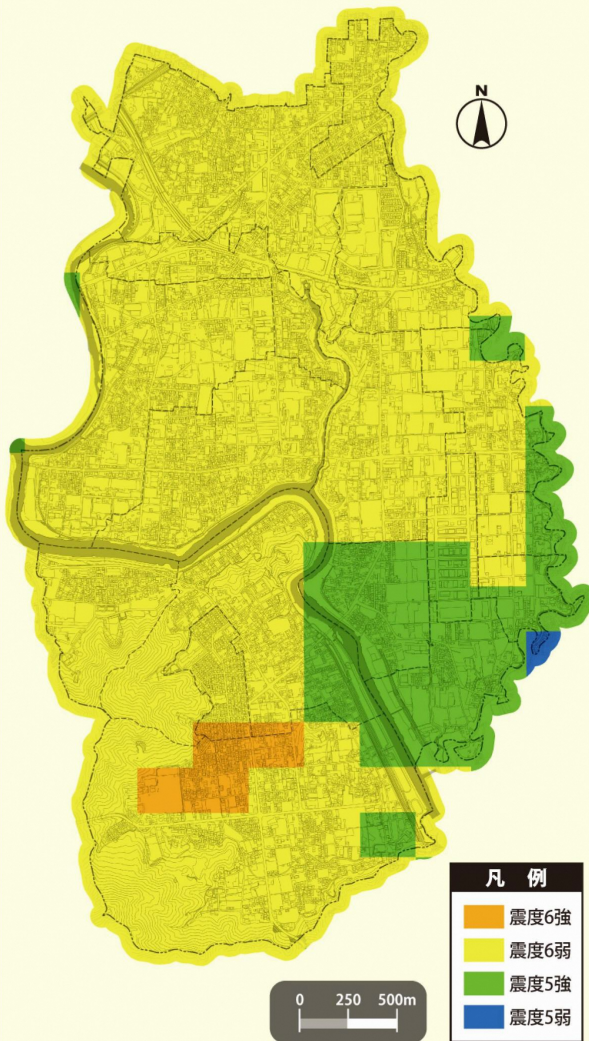
地震について

■ 清水町の地震想定

元禄型関東地震（マグニチュード8.2）が発生した場合に想定される震度と液状化について、シミュレーションをしました。清水町で想定される最大の震度階級は6強です。地震を感じたときは、まずは身の安全を確保しましょう。液状化とは、今までしっかりと建物を支えていた地盤が地震による揺れを受けることで液体のようなになる現象です。地盤が液状化すると重い建物等を支えられなくなるため、建物の傾斜等の被害が発生します。

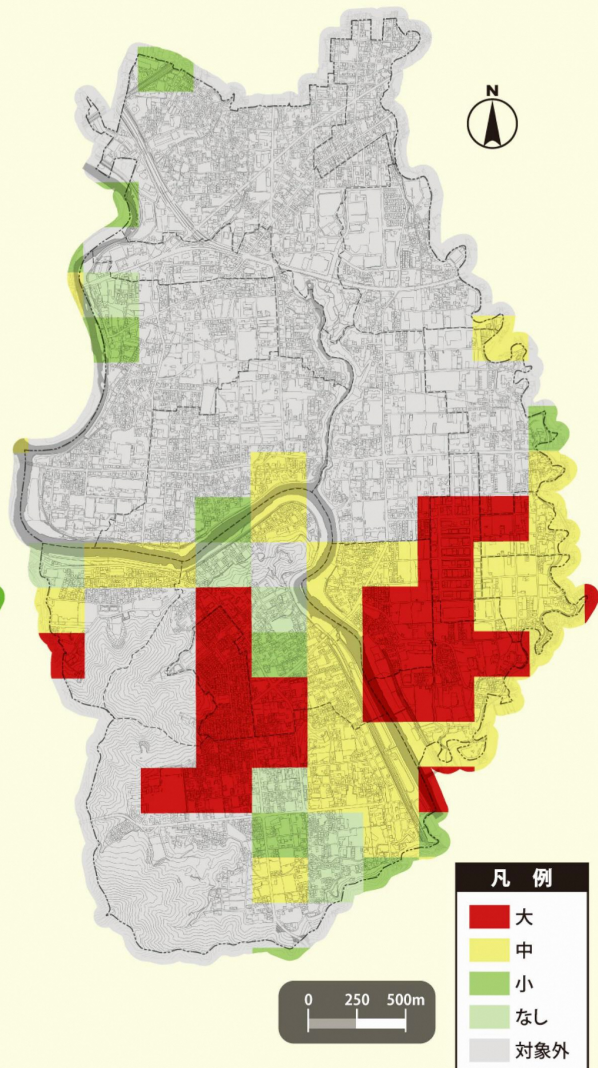
揺れやすさマップ

揺れやすさマップは、地盤の状況とそこで起こりうる地震の両面から地域の揺れやすさを震度階級として示したものです。



液状化危険度マップ

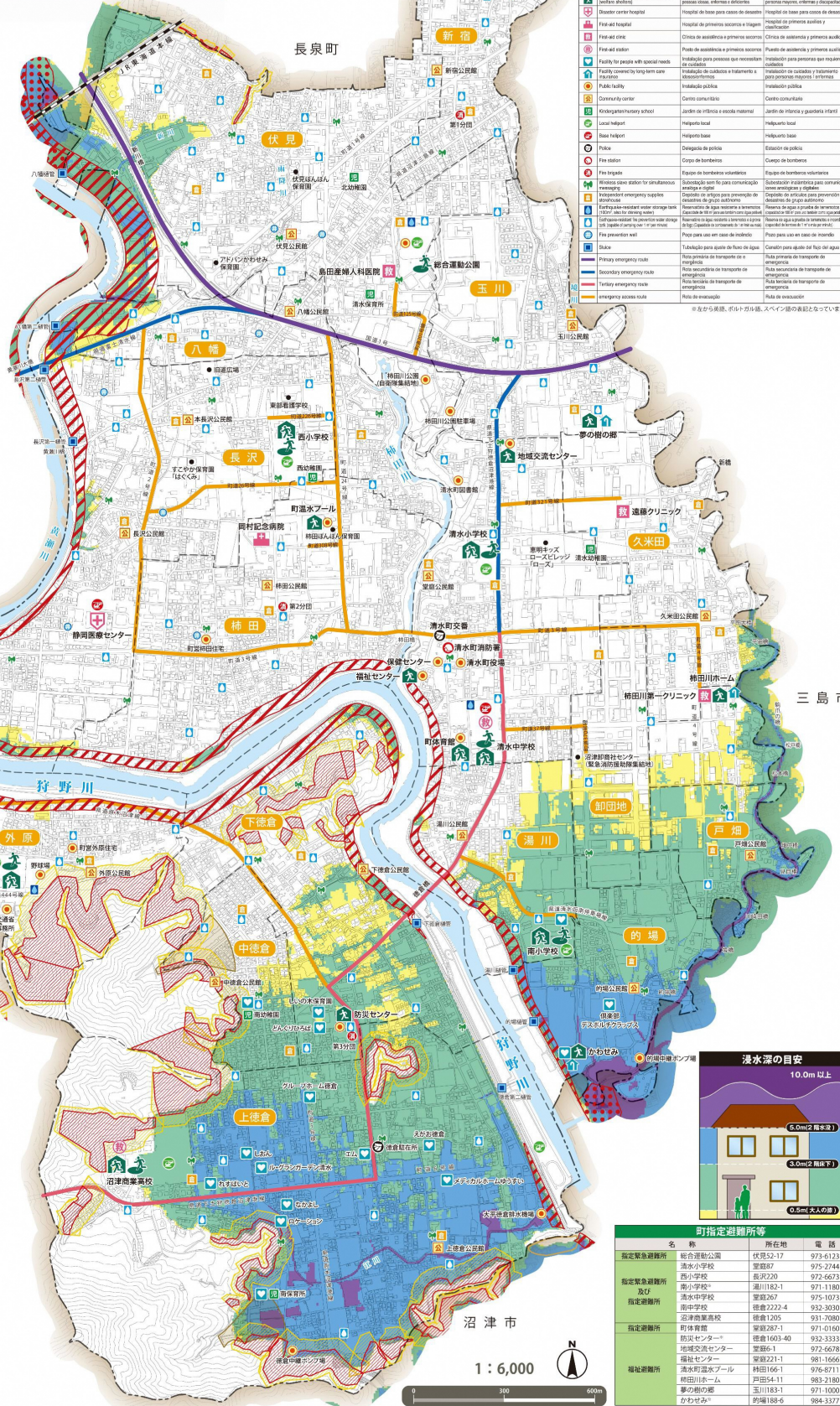
液状化危険度マップは、建物・堤防・橋梁・ライフライン施設などに影響を及ぼす液状化の可能性の大小を判定して示したものです。



河川洪水の浸水リスク (出典: 清水町ハザードマップ 2018年)

清水町防災ハザードマップ

- 凡例**
- 指定緊急避難所
 - 指定避難所
 - 福祉避難所
 - 災害拠点病院
 - 救護病院
 - 救護区院
 - 救護所
 - 要配慮者施設
 - 介護保険施設
 - 公共施設
 - 公民館
 - 幼稚園・保育所
 - 現地ヘリポート
 - 拠点ヘリポート
 - 警察
 - 消防署
 - 消防団
 - 同時通報用無線子局
 - 自主防災会棟
 - 耐震性貯水槽 (貯水容量100m³型)
 - 耐震性防火水槽 (毎分1m³以上排水可能)
 - 防火扉
 - 橋
 - 1次緊急輸送路
 - 2次緊急輸送路
 - 3次緊急輸送路
 - アクセシブルート



Legends	Legenda	Nota
Designated emergency evacuation shelter	Refugio de emergencia designado por el estado	Refugio de emergencia designado por el estado
Designated evacuation shelter	Refugio designado por el estado	Refugio designado por el estado
Welfare evacuation shelter	Refugio con servicios de asistencia a personas con discapacidad y ancianos	Refugio con servicios de asistencia para personas con discapacidad y ancianos
Disaster base hospital	Hospital de base para casos de desastre	Hospital de base para casos de desastre
First-aid hospital	Hospital de primeros auxilios e triaje	Hospital de primeros auxilios e triaje
First-aid clinic	Clinica de asistencia y primeros auxilios	Clinica de asistencia y primeros auxilios
First-aid station	Punto de asistencia y primeros auxilios	Punto de asistencia y primeros auxilios
Facility for people with special needs	Instalación para personas que requieren cuidados especiales	Instalación para personas que requieren cuidados especiales
Facility covered by long-term care insurance	Instalación de cuidados a largo plazo e independencia	Instalación de cuidados y tratamiento para personas mayores e independientes
Public facility	Instalación pública	Instalación pública
Community center	Centro comunitario	Centro comunitario
Kindergarten/nursery school	Jardín de infancia y escuela maternal	Jardín de infancia y guardería infantil
Local hospital	Hospital local	Hospital local
Police	Polizia	Polizia local
Fire station	Estación de bomberos	Estación de bomberos
Fire corps	Equipo de bomberos voluntarios	Equipo de bomberos voluntarios
Wireless call station for simultaneous reporting	Subestación para llamadas simultáneas para comunicación de emergencia	Subestación para llamadas simultáneas para comunicación de emergencia y llamadas de emergencia
Inspection emergency supplies	Deposito de inspección para prevención de desastres de equipo de emergencia	Deposito de inspección para prevención de desastres de equipo de emergencia
Earthquake resistant water storage tank (100m ³ capacity)	Reservorio de agua resistente a sismos (capacidad de 100 m ³)	Reservorio de agua resistente a sismos (capacidad de 100 m ³)
Earthquake resistant fire water tank (1m ³ per minute discharge possible)	Reservorio de agua resistente a sismos (capacidad de 1 m ³ por minuto)	Reservorio de agua resistente a sismos (capacidad de 1 m ³ por minuto)
Fire door	Puerta para uso en caso de incendio	Puerta para uso en caso de incendio
Skate	Tubificación para skate de flujo de agua	Canal para skate de flujo de agua
Primary emergency route	Ruta principal de transporte en emergencia	Ruta principal de transporte en emergencia
Secondary emergency route	Ruta secundaria de transporte en emergencia	Ruta secundaria de transporte en emergencia
Tertiary emergency route	Ruta terciaria de transporte en emergencia	Ruta terciaria de transporte en emergencia
Emergency access route	Ruta de acceso de emergencia	Ruta de acceso de emergencia

- 凡例**
- 浸水に関する情報**
- 家屋倒壊等氾濫想定区域
- 氾濫流^{※1}
 - 河津浸食^{※2}
- ※1 1米高さの家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流が発生するおそれがある区域。
 ※2 家屋が倒壊するような河川浸食の発生するおそれがある区域。
- 最大浸水深 (想定最大規模)**
- 10.0m以上20.0m未満
 - 5.0m以上10.0m未満
 - 3.0m以上5.0m未満
 - 0.5m以上3.0m未満
 - 0.5m未満
- 土砂災害に関する情報**
- 土砂災害特別警戒区域
 - 土砂災害警戒区域
 - 土石流
 - 急傾斜地崩壊危険箇所



町指定避難所等

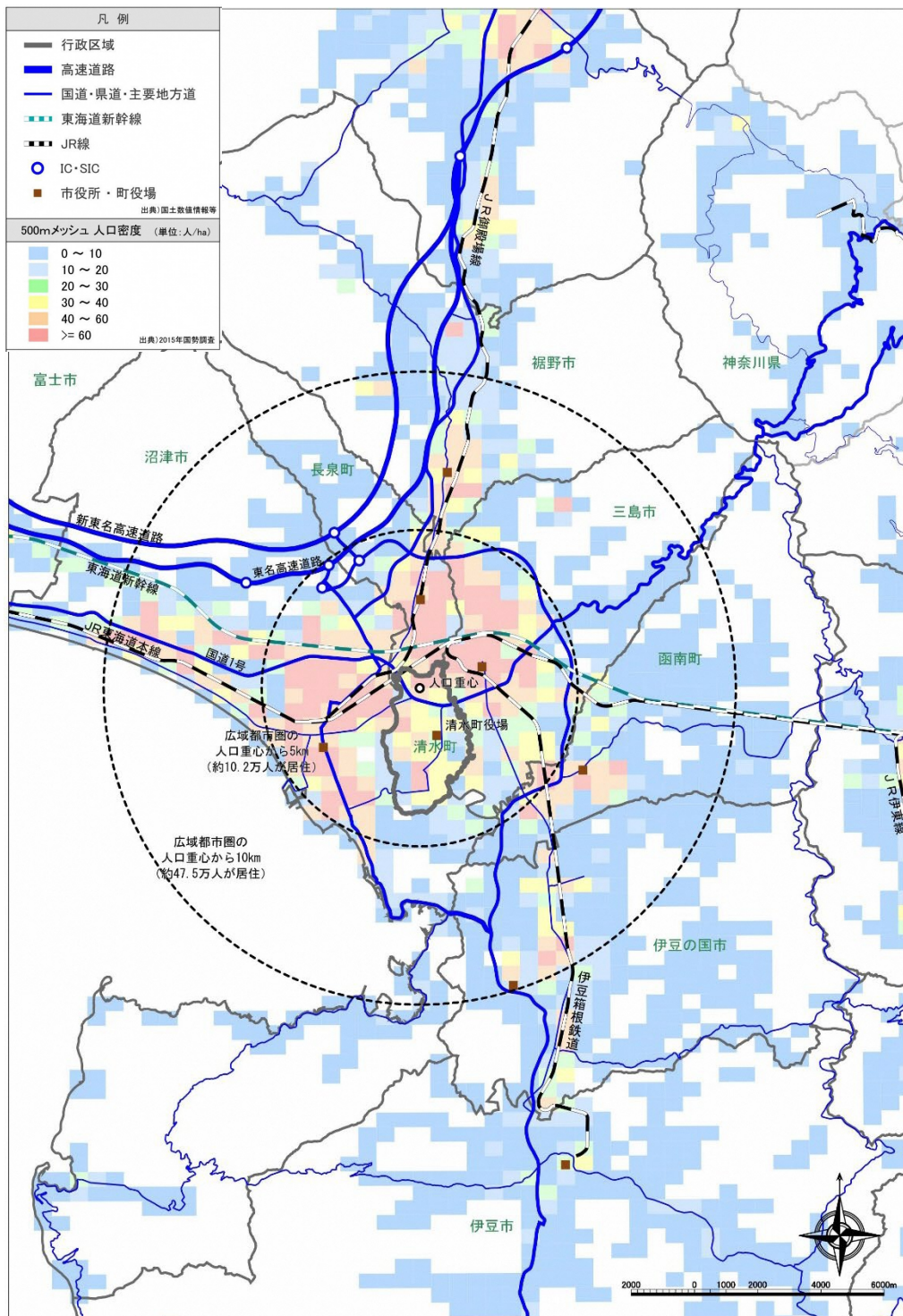
名称	所在地	電話
指定緊急避難所	総合運動公園	伏見52-17 973-6123
指定緊急避難所	清水小学校	望龍7 975-2744
指定緊急避難所	西小学校	長沢20 972-6673
指定緊急避難所	南小学校	湯川1182-1 971-1180
指定緊急避難所	清水中学校	望龍267 975-1073
指定緊急避難所	南中学校	望龍2222-4 952-3050
指定避難所	沼津商業高校	望龍1205 931-7080
指定避難所	町体育館	望龍287-1 971-0160
指定避難所	防災センター	望龍1603-40 952-3333
指定避難所	地域交流センター	望龍6-1 972-6678
福祉避難所	福祉センター	望龍221-1 981-1666
福祉避難所	清水町温水プール	柿田166-1 976-8211
福祉避難所	柿田川ホーム	柿田54-11 983-2180
福祉避難所	夢の樹の郷	玉川1183-1 971-1000
福祉避難所	かわせみ	駒場188-6 984-3377

(10) 広域の人口分布と機能配置

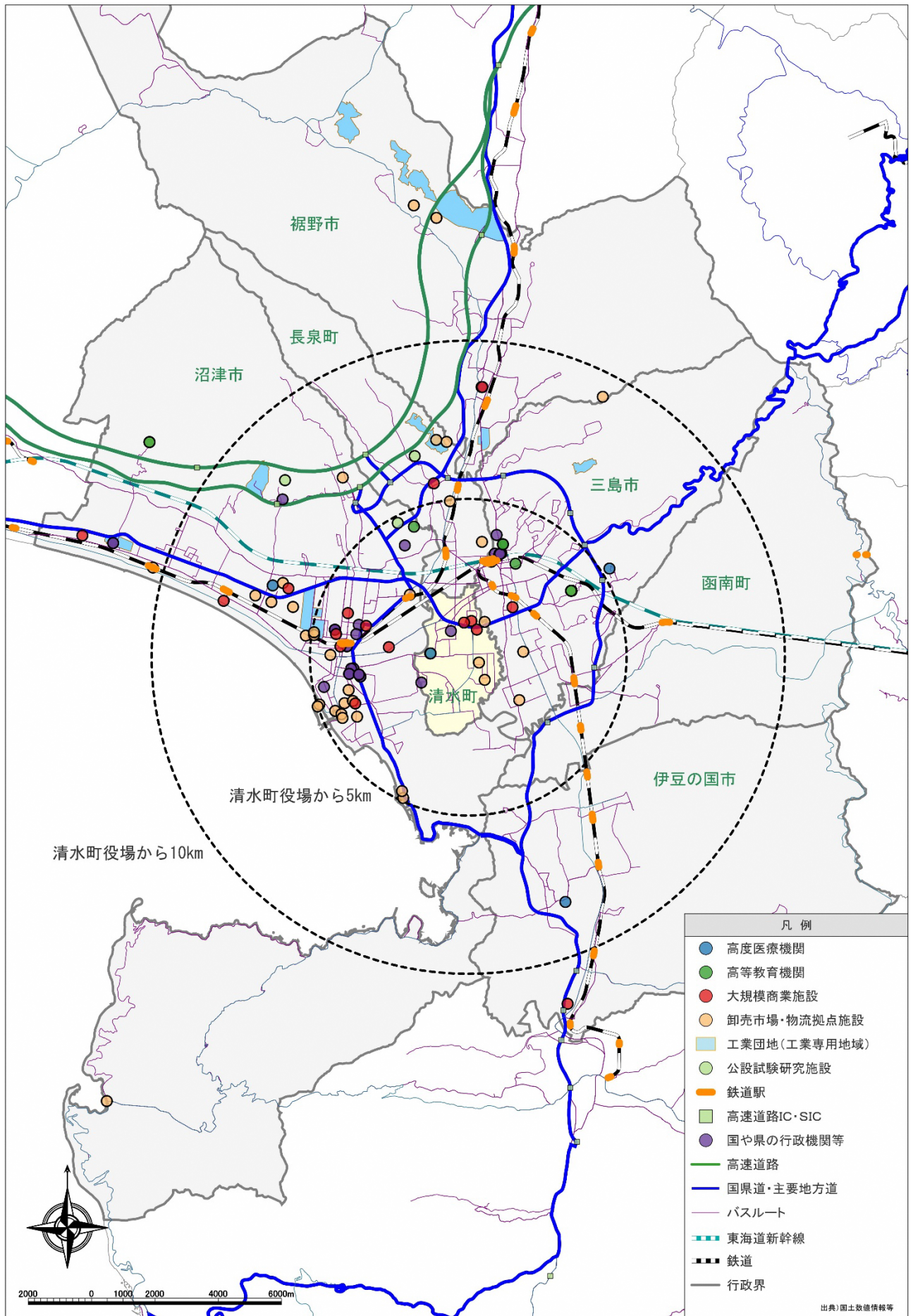
○本町は、広域都市圏の人口重心となっており、人口重心の5km 圏内に約 10.2 万人、10km 圏内に約 47.5 万人が居住しています。国道1号や鉄道沿いなど、交通の利便性が高いエリアに人口の集積が見られます。

○総合病院等の高度医療機関や大学等の高等教育機関、大型商業施設といった高次都市機能が近隣市町に立地しており、町民のくらしの質を高めています。

■ 周辺市町の人口分布（出典：国勢調査及び国土数値情報 2015 年）



■ 清水町周辺の広域における高次都市機能の分布と公共交通ネットワーク（出典：国土数値情報）



出典)国土数値情報等

2. 町民の意向 (出典：住民アンケート調査(2019年及び2020年実施))

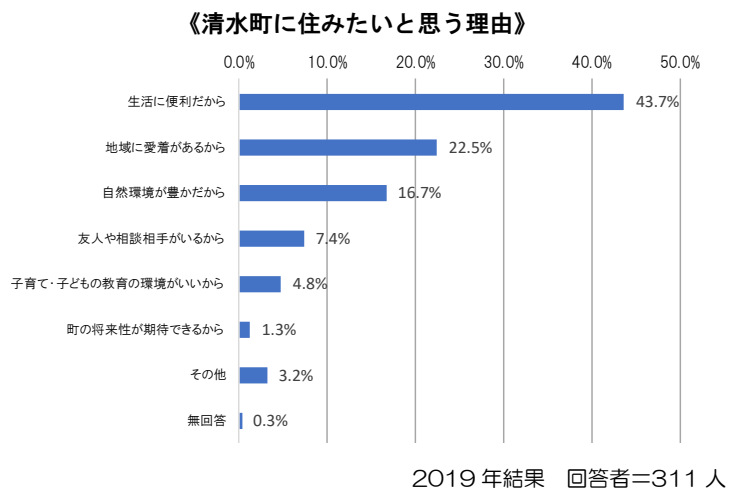
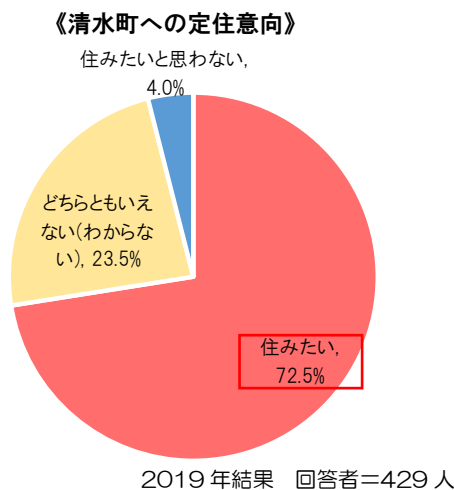
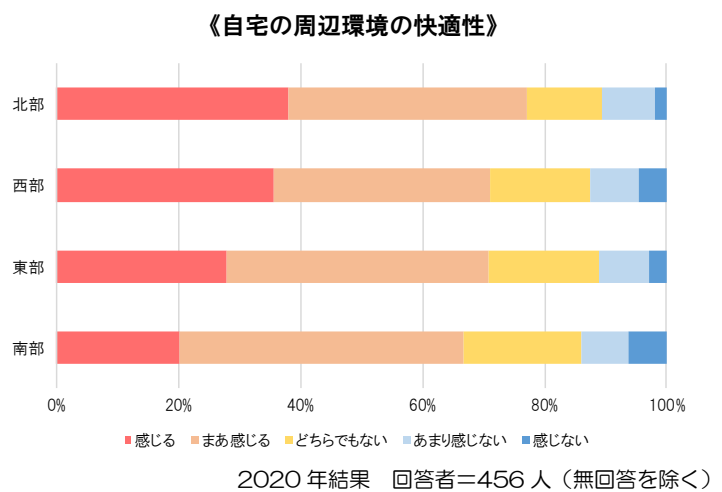
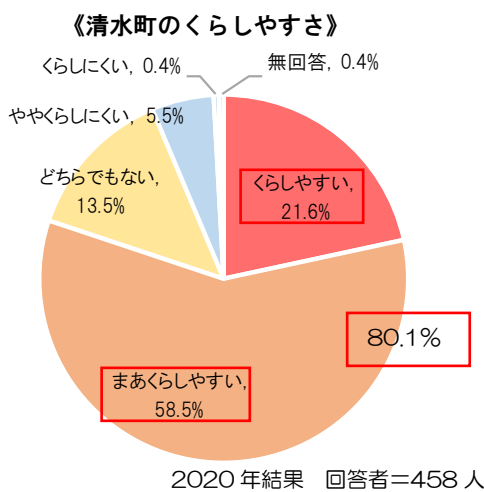
○清水町は概ねくらしやすいとの評価を得ており、定住継続意向も高くなっています。

○都市機能別にみると、医療・福祉については機能が整っているという評価を得ており、今後も維持していくことが求められます。また、教育や災害への備えについては、更なる機能の強化も求められます。

○自家用車がなければ不便と感じる割合が高く、町の生活は自動車へ依存しているといえます。一方、町民の意識として一定の時間、距離であれば徒歩や自転車での移動も可能であることがうかがえ、高齢者や子育て世代のくらしやすさの維持において、誰もが利用可能な公共交通の利便性の改善と併せた、歩いてくらせる環境づくりが必要であると考えられます。

(1) まちづくり全般に係る町民意向

- ・回答者の約8割が、本町はくらしやすいと評価している。また、地域による差はあるものの、自宅の周辺環境に快適さを感じている割合はすべての地域で6割以上となっている。
- ・また、本町への定住継続意向の割合も高い。理由としては、「生活に便利だから」という意見が最も多く全体の約4割、次いで「地域に愛着があるから」と回答した方が約2割と町への愛着もうかがえる。

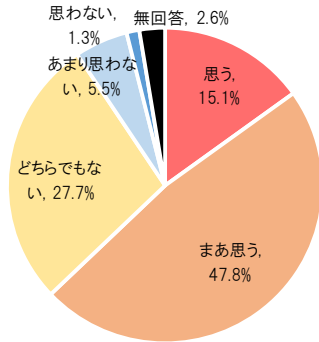


*定住意向の質問に「住みたいと思う」と回答した回答者が対象

(2) 都市機能に係る町民意向

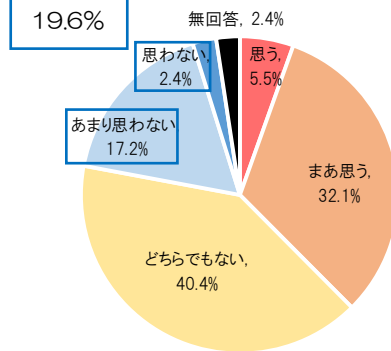
- ・都市機能の分野別で見ると、医療・介護の分野において施設・サービスが整っていると回答した割合が高い。
- ・一方で、教育や自然災害への備えについては、十分でないと感じている割合も一定数みられ、改善が求められる。

《医療や介護の施設・サービスが整う》



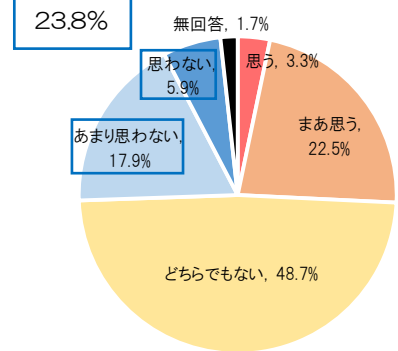
2020年結果 回答者=458人

《教育施設やサービスが充実している》



2020年結果 回答者=458人

《自然災害への備えが十分である》

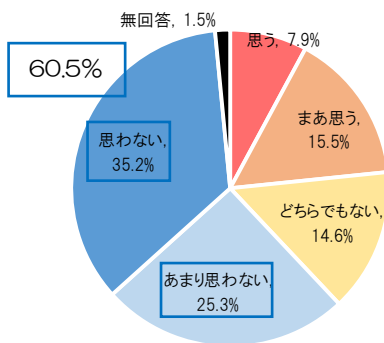


2020年結果 回答者=458人

(3) 移動に係る町民意向

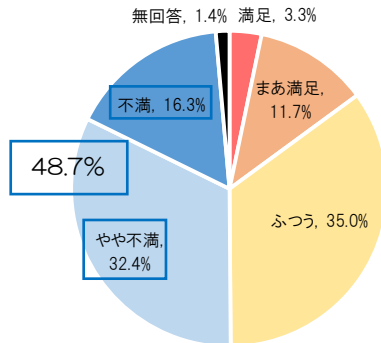
- ・自家用車を利用しないと不便だと感じている方が全体の約6割いる。
- ・バス等の公共交通の利便性については回答者の約半数が不満に感じており、町内循環バスの利用率も低い。
- ・徒歩移動について、年齢に関係なく、10分程度（1km程度）の移動は許容できると回答した割合が高い。自転車については、年齢を重ねるとともに利用率が低下するものの、すべての年齢層で利用者の半数以上が概ね町内全域にアクセス可能な5～15分（1km～3km程度）の移動を許容できると回答している。

《自家用車を利用しなくても困らない》



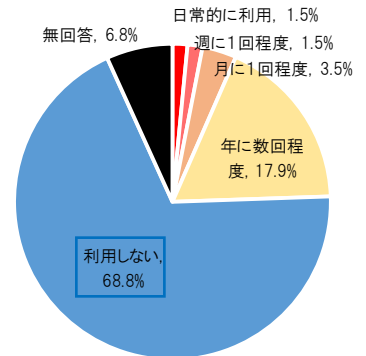
2020年結果 回答者=458人

《公共交通の利便性への満足度》



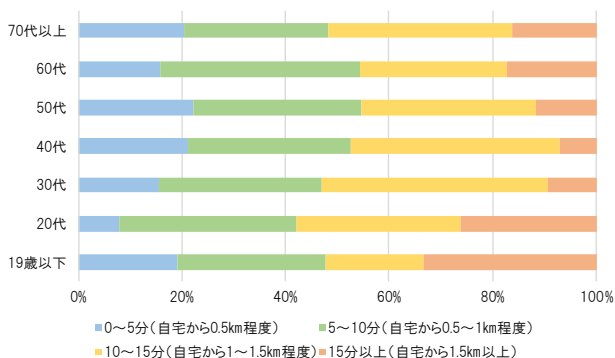
2019年結果 回答者=429人

《町内循環バスの利用頻度》



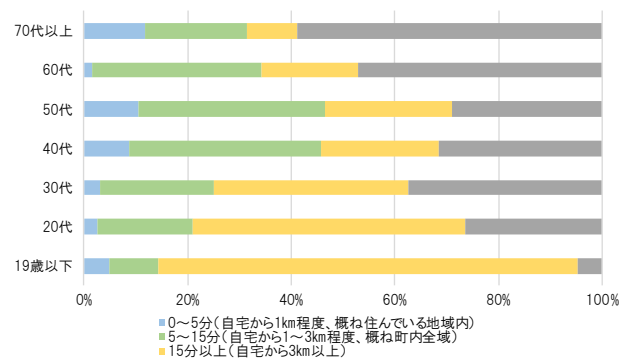
2020年結果 回答者=458人

《自宅から目的地までの徒歩での許容時間（距離）》



2020年結果 回答者=451人（無回答を除く）

《自宅から目的地までの自転車での許容時間（距離）》



2020年結果 回答者=450人（無回答を除く）

3. 清水町の特性

本町の現況と町民の意向を踏まえ、特性として着目すべき点を整理します。

本町には、約5万台/日の交通量がある国道1号をはじめとした交通利便性や、沼津市や三島市と隣接する恵まれた立地に支えられ、生活利便施設が充実したベッドタウンとして人口密度の高い住宅地が形成されています。

また、(都)西間門新谷線の整備や(都)玉川卸団地線等の整備検討が進み、更なる交通利便性の向上が期待されています。

しかし、全国的に人口減少・少子高齢化が本格化する中、本町でも人口減少・少子高齢化が進行しており、こうした状況が、生活に必要なサービス、コミュニティ、公共交通の維持等に影響することも懸念されます。

このため、これからは人口の維持に向けた取組とともに、本町の特性を踏まえ、今ある「くらしやすさ」を保ちながら、さらに高めるまちづくりを進めていく必要があります。

■ 清水町の特性の整理

《清水町の現況と課題》



《清水町の特性》

- ① 広域都市圏の人口重心で、高い人口密度を維持する一方、人口減少・少子高齢化は少しずつ進行している。
- ② 町の人口を超える5万台/日以上自動車交通が町を通過する一方、公共交通は路線維持に課題がある。
- ③ 多様で数多くの都市機能が立地も、分散した配置となっている。
- ④ 恵まれた立地で、住宅地を中心に都市的土地利用が進んでいる。
- ⑤ 整備が進む都市計画道路沿道は、町のこれからの担う貴重なエリアとして適切に土地利用を誘導する必要がある。
- ⑥ 町の南部の市街地では、洪水による浸水リスクが懸念される。